



09/821,248

本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年 4月11日

願 番 号
Application Number:

特願2000-109973

願 人
Applicant(s):

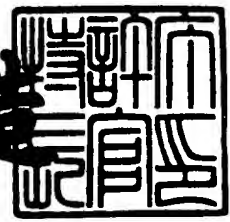
株式会社リコー

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 4月 6日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3027212

【書類名】 特許願

【整理番号】 0003255

【提出日】 平成12年 4月11日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/225

【発明の名称】 画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システム

【請求項の数】 57

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 関 和之

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 鈴木 啓一

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 興石 隆保

【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代理人】

【識別番号】 100089118

【弁理士】

【氏名又は名称】 酒井 宏明

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-100126

【出願日】 平成12年 3月31日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 036711

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9808514

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、
前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、
前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、
を備えたことを特徴とする画像入力装置。

【請求項 2】 さらに、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、
前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行することを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 3】 前記記録モードでは、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データが記録されることを特徴とする請求項 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 4】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内に前記選択手段で選択されたカット名を付加することを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の画像入力装置。

【請求項 5】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、前記選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶することを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の画像入力装置。

【請求項 6】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのファイル名を、少なくとも一部に前記選択手段で選択されたカット名を含むようにしたことを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の画像入力装置。

【請求項 7】 前記記録モードで記録した画像データに前記選択手段で選択されたカット名を合成することを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の画

像入力装置。

【請求項 8】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する
撮影指示情報とを含む撮影リストを入力するための入力手段と、
前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、
前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、
前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段
を備え、

前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、前記撮影リストの対応
する撮影指示情報の内容を報知することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 9】 前記撮影指示情報の内容は、撮影の手順であることを特徴と
する請求項 8 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 0】 前記撮影指示情報の内容は、撮影と同時にしくは撮影後の
作業の指示であることを特徴とする請求項 8 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 1】 前記撮影指示情報はテキスト文書からなり、当該撮影指示
情報の内容は、前記表示手段に表示されることを特徴とする請求項 8 ～ 1 0 のい
ずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 1 2】 前記撮影指示情報は図面からなり、当該撮影指示情報の内
容は、前記表示手段に表示されることを特徴とする請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1
つに記載の画像入力装置。

【請求項 1 3】 前記撮影指示情報は音声からなり、当該撮影指示情報の内
容は、音声出力手段で再生されることを特徴とする請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1
つに記載の画像入力装置。

【請求項 1 4】 前記撮影指示情報は動画からなり、当該撮影指示情報の内
容は、前記表示手段に再生されることを特徴とする請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1
つに記載の画像入力装置。

【請求項 1 5】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、

記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する記録後の指示とを含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、

前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、

前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、当該記録モードで記録した記録データを、前記撮影リストの前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 1 6】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した記録データをメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 7】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した画像データに対応するサムネール画像をメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 8】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が画像データの変倍メール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 9】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードの場合には、前記記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードす

ることを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 0】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードおよび当該ホームページの URL アドレスの通知の場合には、前記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換し、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするとともに、アップロード先のホームページの URL アドレスを前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 1】 さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、

前記選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 2】 前記記録データは、静止画像データ、二値画像データ、動画像データ、および音声データのいずれかであることを特徴とする請求項 2 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 3】 さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報を、前記記録モードで記録した画像データと合成することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 4】 前記メモ情報は、テキスト文字であることを特徴とする請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 2 5】 前記メモ情報は、手書き文字であることを特徴とする請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 2 6】 さらに、音声を入力する音声入力手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後の音声入力である場合には、前記記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、前

記音声入力手段から入力される音声のファイルを前記記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 7】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、
前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、
前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、
前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、
前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、リリースキーの操作に応じて、被写体の画像の記録を行う記録制御手段と、
前記撮影リストの進捗を管理する撮影リスト進捗管理手段と、
外部とデータ通信するための通信手段と、
を備えたことを特徴とする画像入力装置。

【請求項 2 8】 前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を前記通信手段を介して、指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 2 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 9】 前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リストのカット名の撮影が所定のポイントまで終了した場合にその旨を、前記通信手段を介して、指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 2 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 0】 前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リストに含まれる自動報告指示に応じて、撮影リストの進捗を管理することを特徴とする請求項 2 7 ～請求項 2 9 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 3 1】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、

少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、

前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして記録する記録制御手段と、

前記撮影リスト毎に、前記記録ファイルをグループ化するグループ化手段と、
を備えたことを特徴とする画像入力装置。

【請求項 3 2】 前記グループ化手段は、さらに、前記カット名毎に前記記録ファイルをグループ化することを特徴とする請求項 3 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 3】 前記グループ化手段は、さらに、前記記録ファイルの種類別に前記記録ファイルをグループ化することを特徴とする請求項 3 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 4】 前記グループ化手段は、前記撮影リスト内にグループ化の指示がある場合に、前記記録ファイルのグループ化を行うことを特徴とする請求項 3 1 ～請求項 3 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 3 5】 前記グループ化手段は、前記記録ファイルを同一のフォルダに登録してグループ化することを特徴とする請求項 3 1 ～請求項 3 4 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 3 6】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、
前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、
を備え、

前記撮影リスト内に複数画像の合成の指示がある場合には、前記撮影した複数の画像を合成することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 3 7】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、
前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、
前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、
を備え、

前記撮影リスト内に複数画像の補正指示がある場合に、当該補正指示に従って前記撮影した複数の画像を補正することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 3 8】 前記複数画像の補正指示は、色補正指示であることを特徴とする請求項 3 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 9】 前記複数画像の補正指示は、レンズの歪み補正指示であることを特徴とする請求項 3 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 0】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影条件指示および／または撮影後の処理条件指示を含む撮影リス

トを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、

前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、

を備え、

前記記録モードでは、前記選択手段で選択されたカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を実行し、かつ／または、前記記録モードで撮影した画像を前記選択手段で選択されたカット名に対応する撮影後の処理条件指示に従って処理することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 4 1】 前記撮影条件指示には、日付を撮影した画像に合成する指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 2】 前記撮影条件指示には、画像スタンプを撮影した画像に合成する指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 3】 前記撮影条件指示には、撮影する場合の解像度の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 4】 前記撮影条件指示には、カット枚数の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 5】 前記撮影条件指示には、露出条件の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 6】 前記撮影条件指示には、シャッタースピードの指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 7】 前記撮影条件指示には、ストロボの ON / OFF の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 8】 前記撮影条件指示には、撮影する画像の縦横サイズの指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 9】 前記撮影条件指示には、撮影する画像のアスペクト比の指

示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 0】 前記撮影条件指示には、文字撮影モードでの撮影の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 1】 前記撮影条件指示には、動画撮影モードでの撮影の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 2】 前記撮影条件指示には、音声と同時に記録する指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 3】 前記撮影リストは、外部から転送されてきて、前記入力手段を介して入力されることを特徴とする請求項 5 1 ～請求項 5 2 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 5 4】 請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用したことを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項 5 5】 請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用したことを特徴とする携帯情報入力装置。

【請求項 5 6】 少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを作成する撮影リスト作成手段と、

前記撮影リスト作成手段で作成された撮影リストを画像入力装置に転送するための通信手段と、

を備えたことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 5 7】 請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置と、請求項 5 6 に記載の情報処理装置とで構築されることを特徴とする画像入力システム。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システムに関し、詳細には、撮影リストを使用する画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

デジタルカメラの原型は、電子スチルカメラであり、実用的には 1 9 8 1 年頃発売されたソニーのマビカから始まっている。その後、撮像デバイス C C D の高詳細化・低価格化、記録媒体カードメモリの大容量化・小型化、および静止画像圧縮符号方式である J P E G の半導体チップの出現などに伴い、現在のデジタルカメラは、小型化・低価格・高性能化が進んできている。

【 0 0 0 3 】

また、携帯電話の急激な普及やノートパーソナルコンピュータの小型化、シャープのザウルスに代表される P D A の普及によって、移動中に機器を使用する環境が整ってきた中で、画像入力手段として普及してきたデジタルカメラが、パソコンやネットワークに結合し、画像だけでなく、音声・動画などのあらゆるイメージ情報のキャプチャとして、マルチメディアシステムの重要な要素になってきている。

【 0 0 0 4 】

また、デジタルカメラは、上述のキャプチャのみならず、近時研究が活発化してきている身につけるコンピュータ（ウェアラブル・コンピュータ）の候補としても、携帯電話・P D A ・パットフォームパーソナルコンピュータとともに期待されている。さらに、デジタルカメラは、インターネットとの接続機能、個人情報の管理機能や、プレゼン機能等のより高機能なものへの対応が望まれている。

【 0 0 0 5 】

例えば、特開平 1 0 - 3 4 1 3 9 6 号公報の「デジタルカメラの機能的付加方法」では、外部記録媒体に記録されているプログラムを受け取りデジタルカメラの記憶媒体に記録する第 1 のプロセスと、所望の時期に前記プログラムを前記カメラの記録媒体から読み出して実行する第 2 のプロセスとを有することにより、所望する機能を追加するために、外部からプログラムを導入可能とした技術が開示されている。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、特開平 1 0 - 3 4 1 3 9 6 号公報の「デジタルカメラの機能的付加方法」では、必要な被写体の取り忘れや作業漏れを防止できないという問題がある。

【 0 0 0 7 】

本発明は、上記に鑑みてなされたものであり、必要な被写体の取り忘れや作業漏れを防止可能な画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

上記課題を達成するために、請求項 1 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、を備えたものである。

【 0 0 0 9 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示する。

【 0 0 1 0 】

また、請求項 2 にかかる発明は、請求項 1 にかかる発明において、さらに、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行するものである。上記発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行する。

【 0 0 1 1 】

また、請求項 3 にかかる発明は、請求項 2 にかかる発明において、前記記録モ

ードでは、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データが記録されるものである。上記発明によれば、請求項 2 にかかる発明において、記録モードでは、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データを記録する。

【 0 0 1 2 】

また、請求項 4 にかかる発明は、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内に前記選択手段で選択されたカット名を付加するものである。上記発明によれば、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内に前記選択手段で選択されたカット名を付加するものである。

【 0 0 1 3 】

また、請求項 5 にかかる発明は、請求項 2 または 3 にかかる発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、前記選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶するものである。上記発明によれば、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶する。

【 0 0 1 4 】

また、請求項 6 にかかる発明は、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのファイル名を、少なくとも一部に前記選択手段で選択されたカット名を含むようにしたものである。上記発明によれば、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、記録モードで記録した記録データの記録ファイルのファイル名を、少なくとも一部に選択手段で選択されたカット名を含むようにした。

【 0 0 1 5 】

また、請求項 7 にかかる発明は、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、前記記録モードで記録した画像データに前記選択手段で選択されたカット名を合成するものである。上記発明によれば、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、記録モードで記録した画像データに選択手段で選択されたカット名

を合成する。

【 0 0 1 6 】

また、請求項 8 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影指示情報とを含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、前記撮影リストの対応する撮影指示情報の内容を報知するものである。

【 0 0 1 7 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影指示情報とを含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、撮影リストの対応する撮影指示情報の内容を報知する。

【 0 0 1 8 】

また、請求項 9 にかかる発明は、請求項 8 にかかる発明において、前記撮影指示情報の内容は、撮影の手順であることとした。上記発明によれば、請求項 8 にかかる発明において、撮影指示情報の内容は撮影の手順である。

【 0 0 1 9 】

また、請求項 1 0 にかかる発明は、請求項 8 にかかる発明において、前記撮影指示情報の内容は、撮影と同時にしくは撮影後の作業の指示であることとした。上記発明によれば、請求項 8 にかかる発明において、撮影指示情報の内容は撮影と同時にしくは撮影後の作業の指示である。

【 0 0 2 0 】

また、請求項 1 1 にかかる発明は、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発

明において、撮影指示情報はテキスト文書からなり、当該撮影指示情報の内容は、前記表示手段に表示されることとした。上記発明によれば、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影指示情報はテキスト文書からなり、撮影指示情報の内容は、表示手段に表示される。

【 0 0 2 1 】

また、請求項 1 2 にかかる発明は、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、前記撮影指示情報は図面からなり、当該撮影指示情報の内容は、前記表示手段に表示されることとした。上記発明によれば、前記撮影指示情報は図面からなり、当該撮影指示情報の内容は、前記表示手段に表示されることとした。

【 0 0 2 2 】

また、請求項 1 3 にかかる発明は、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、前記撮影指示情報は音声からなり、当該撮影指示情報の内容は、音声出力手段で再生されることとした。上記発明によれば、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影指示情報は音声からなり、当該撮影指示情報の内容は、音声出力手段で再生される。

【 0 0 2 3 】

また、請求項 1 4 にかかる発明は、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、前記撮影指示情報は動画からなり、当該撮影指示情報の内容は、前記表示手段に再生されることとした。上記発明によれば、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影指示情報は動画からなり、当該撮影指示情報の内容は、前記表示手段に再生される。

【 0 0 2 4 】

また、請求項 1 5 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する記録後の指示とを含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手

段を備え、前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、該記録モードで記録した記録データを、前記撮影リストの前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理するものである。

【 0 0 2 5 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する記録後の指示とを含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、該記録モードで記録した記録データを、撮影リストの選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理する。

【 0 0 2 6 】

また、請求項 1 6 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した記録データをメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信する。上記発明によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、記録モードで記録した記録データをメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信する。

【 0 0 2 7 】

また、請求項 1 7 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した画像データに対応するサムネール画像をメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信するものである。上記発明によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付送信の場合には、記録モードで記録した画像データに対

応するサムネール画像をメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信する。

【 0 0 2 8 】

また、請求項 1 8 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が画像データの変倍メール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信するものである。上記発明によれば、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が画像データの変倍メール添付送信の場合には、記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信する。

【 0 0 2 9 】

また、請求項 1 9 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードの場合には、前記記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするものである。

【 0 0 3 0 】

上記発明によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードの場合には、記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、通信手段を介して指定されるホームページにアップロードする。

【 0 0 3 1 】

また、請求項 2 0 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードおよび当該ホームページの URL アドレスの通知の場合には、前記記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換し、前記通信手段を介して指定されるホームページにアッ

プロードするとともに、アップロード先のホームページのURLアドレスを前記通信手段を介して指定される送信先に送信するものである。

【 0 0 3 2 】

上記発明によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードおよび当該ホームページのURLアドレスの通知の場合には、記録モードで記録した画像データをHTMLファイルに変換し、通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするとともに、アップロード先のホームページのURLアドレスを通信手段を介して指定される送信先に送信する。

【 0 0 3 3 】

また、請求項 2 1 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、前記選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納するものである。

【 0 0 3 4 】

上記発明によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、メモ情報入力手段はメモ情報を入力し、選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納する。

【 0 0 3 5 】

また、請求項 2 2 にかかる発明は、請求項 2 1 にかかる発明において、前記記録データは、静止画像データ、二値画像データ、動画像データ、および音声データのいずれかであることとした。上記発明によれば、請求項 2 1 にかかる発明において、前記記録データは、静止画像データ、二値画像データ、動画像データ、および音声データのいずれかである。

【 0 0 3 6 】

また、請求項 2 3 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報を、前記記録モードで記録した画像データと合成するものである。

【 0 0 3 7 】

上記発明によれば、メモ入力手段はメモ情報を入力し、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、メモ入力手段から入力されるメモ情報を、記録モードで記録した画像データと合成する。

【 0 0 3 8 】

また、請求項 2 4 にかかる発明は、請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つにかかる発明において、前記メモ情報は、テキスト文字であることとした。上記発明によれば、請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つにかかる発明において、メモ情報をテキスト文字とした。

【 0 0 3 9 】

また、請求項 2 5 にかかる発明は、請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つにかかる発明において、前記メモ情報は、手書き文字であることとした。上記発明によれば、請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つにかかる発明において、メモ情報を手書き文字とした。

【 0 0 4 0 】

また、請求項 2 6 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、音声を入力する音声入力手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後の音声入力である場合には、前記記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、前記音声入力手段から入力される音声のファイルを前記記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納するものである。

【 0 0 4 1 】

上記発明によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、音声入力手段は音声を入力し、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後の音声入力である場合には、記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、音声入力手段から入力される音声のファイルを記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納する。

【 0 0 4 2 】

また、請求項 2 7 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、リリースキーの操作に応じて、被写体の画像の記録を行う記録制御手段と、前記撮影リストの進捗を管理する撮影リスト進捗管理手段と、外部とデータ通信するための通信手段と、を備えたものである。

【 0 0 4 3 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、記憶手段は少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、記録制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、リリースキーの操作に応じて、被写体の画像の記録を行い、撮影リスト進捗管理手段制御手段は撮影リストの進捗を管理し、通信手段は外部とデータ通信する。

【 0 0 4 4 】

また、請求項 2 8 にかかる発明は、請求項 2 7 にかかる発明において、前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を前記通信手段を介して、指定される送

信先に送信するものである。上記発明によれば、請求項 27 にかかる発明において、撮影リスト進捗管理手段は、撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を通信手段を介して、指定される送信先に送信する。

【 0 0 4 5 】

また、請求項 29 にかかる発明は、請求項 27 にかかる発明において、前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リストのカット名の撮影が所定のポイントまで終了した場合にその旨を、前記通信手段を介して、指定される送信先に送信するものである。上記発明によれば、請求項 27 にかかる発明において、撮影リスト進捗管理手段は、撮影リストのカット名の撮影が所定のポイントまで終了した場合にその旨を、通信手段を介して指定される送信先に送信する。

【 0 0 4 6 】

また、請求項 30 にかかる発明は、請求項 27 ～請求項 29 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影リスト進捗管理手段は、撮影リストに含まれる自動報告指示に応じて、撮影リストの進捗を管理するものである。上記発明によれば、請求項 27 ～請求項 29 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影リスト進捗管理手段は、撮影リストに含まれる自動報告指示に応じて、撮影リストの進捗を管理する。

【 0 0 4 7 】

また、請求項 31 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして記録する記録制御手段と、前記撮影リスト毎に、前記記録ファイルをグループ化するグループ化手段と、を備えたも

のである。

【0048】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は少なくとも、記録すべき被記録対象の1または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から1のカット名を選択し、記録制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして記録し、グループ化手段は撮影リスト毎に、記録ファイルをグループ化する。

【0049】

また、請求項32にかかる発明は、請求項31にかかる発明において、前記グループ化手段は、さらに、前記カット名毎に前記記録ファイルをグループ化するものである。上記発明によれば、請求項31にかかる発明において、グループ化手段は、さらに、カット名毎に記録ファイルをグループ化する。

【0050】

また、請求項33にかかる発明は、請求項31にかかる発明において、前記グループ化手段は、さらに、前記記録ファイルの種類別に前記記録ファイルをグループ化するものである。上記発明によれば、請求項31にかかる発明において、グループ化手段は、さらに、記録ファイルの種類別に記録ファイルをグループ化する。

【0051】

また、請求項34にかかる発明は、請求項31～請求項33のいずれか1つにかかる発明において、前記グループ化手段は、前記撮影リスト内にグループ化の指示がある場合に、前記記録ファイルのグループ化を行うものである。上記発明によれば、請求項31～請求項33のいずれか1つにかかる発明において、グループ化手段は、撮影リスト内にグループ化の指示がある場合に、記録ファイルのグループ化を行う。

【 0 0 5 2 】

また、請求項 3 5 にかかる発明は、請求項 3 1 ～請求項 3 4 のいずれか 1 つにかかる発明において、前記グループ化手段は、前記記録ファイルを同一のフォルダに登録してグループ化するものである。上記発明によれば、請求項 3 1 ～請求項 3 4 のいずれか 1 つにかかる発明において、グループ化手段は、記録ファイルを同一のフォルダに登録してグループ化する。

【 0 0 5 3 】

また、請求項 3 6 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、を備え、前記撮影リスト内に複数画像の合成の指示がある場合には、前記撮影した複数の画像を合成するものである。

【 0 0 5 4 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は少なくとも記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、撮影制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行い、撮影リスト内に複数画像の合成の指示がある場合には、撮影した複数の画像を合成する。

【 0 0 5 5 】

また、請求項 3 7 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段

と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から1のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、を備え、前記撮影リスト内に複数画像の補正指示がある場合に、当該補正指示に従って前記撮影した複数の画像を補正するものである。

【 0 0 5 6 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は少なくとも、記録すべき被記録対象の1または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から1のカット名を選択し、撮影制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行い、撮影リスト内に複数画像の補正指示がある場合に、当該補正指示に従って撮影した複数の画像を補正する。

【 0 0 5 7 】

また、請求項38にかかる発明は、請求項37にかかる発明において、前記複数画像の補正指示は、色補正指示であることとした。上記発明によれば、請求項37にかかる発明において、複数画像の補正指示は、色補正指示であることとした。

【 0 0 5 8 】

また、請求項39にかかる発明は、請求項37にかかる発明において、前記複数画像の補正指示は、レンズの歪み補正指示であることとした。上記発明によれば、請求項37にかかる発明において、複数画像の補正指示は、レンズの歪み補正指示である。

【 0 0 5 9 】

また、請求項40にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像

された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影条件指示および／または撮影後の処理条件指示を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、を備え、前記記録モードでは、前記選択手段で選択されたカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を実行し、かつ／または、前記記録モードで撮影した画像を前記選択手段で選択されたカット名に対応する撮影後の処理条件指示に従って処理するものである。

【 0 0 6 0 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影条件指示および／または撮影後の処理条件指示を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、撮影制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行い、記録モードでは、選択手段で選択されたカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を実行し、かつ／または、記録モードで撮影した画像を選択手段で選択されたカット名に対応する撮影後の処理条件指示に従って処理する。

【 0 0 6 1 】

また、請求項 4 1 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、日付を撮影した画像に合成する指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、日付を撮影した画像に合成する指示が含まれる。

【 0 0 6 2 】

また、請求項 4 2 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、画像スタンプを撮影した画像に合成する指示が含まれるものである。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、画像スタンプを撮影した画像に合成する指示が含まれる。

【 0 0 6 3 】

また、請求項 4 3 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、撮影する場合の解像度の指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、撮影する場合の解像度の指示が含まれる。

【 0 0 6 4 】

また、請求項 4 4 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、カット枚数の指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、カット枚数の指示が含まれる。

【 0 0 6 5 】

また、請求項 4 5 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、露出条件の指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には露出条件の指示が含まれる。

【 0 0 6 6 】

また、請求項 4 6 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、シャッタースピードの指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示にはシャッタースピードの指示が含まれる。

【 0 0 6 7 】

また、請求項 4 7 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、ストロボの ON / OFF の指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示にはストロボの ON / OFF の指示が含まれる。

【 0 0 6 8 】

また、請求項 4 8 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、撮影する画像の縦横サイズの指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、撮影する画像の縦横サイズの指示が含まれる。

【 0 0 6 9 】

また、請求項 4 9 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、撮影する画像のアスペクト比の指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、撮影する画像のアスペクト比の指示が含まれる。

【 0 0 7 0 】

また、請求項 5 0 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、文字撮影モードでの撮影の指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、文字撮影モードでの撮影の指示が含まれる。

【 0 0 7 1 】

また、請求項 5 1 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、動画撮影モードでの撮影の指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、動画撮影モードでの撮影の指示が含まれる。

【 0 0 7 2 】

また、請求項 5 2 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、音声を同時に記録する指示が含まれることとした。上記発明によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には音声を同時に記録する指示が含まれる。

【 0 0 7 3 】

また、請求項 5 3 にかかる発明は、請求項 5 1 ～請求項 5 2 にかかる発明において、前記撮影リストは、外部から転送されてきて、前記入力手段を介して入力されるものである。上記発明によれば、請求項 5 1 ～請求項 5 2 にかかる発明において、撮影リストは入力手段を介して外部から入力される。

【 0 0 7 4 】

また、請求項 5 4 にかかる発明は、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用したものである。上記発明によれば、デジタルカメラに請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用した。

【 0 0 7 5 】

また、請求項 5 5 にかかる発明は、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用したものである。上記発明によれば、携帯情報入力装置を請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置に適用した。

【 0 0 7 6 】

また、請求項 5 6 にかかる発明は、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを作成する撮影リスト作成手段と、前記撮影リスト作成手段で作成された撮影リストを画像入力装置に転送するための通信手段とを備えたものである。上記発明によれば、撮影リスト作成手段は少なくとも記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを作成し、通信手段は撮影リスト作成手段で作成された撮影リストを画像入力装置に転送する。

【 0 0 7 7 】

また、請求項 5 7 にかかる発明は、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置と、請求項 5 6 に記載の情報処理装置とで構築されるものである。上記発明によれば、画像入力システムを請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置と、請求項 5 6 に記載の情報処理装置とで構築する。

【 0 0 7 8 】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して、本発明にかかる画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システムの好適な実施の形態を詳細に説明する。

【 0 0 7 9 】

以下、〔本実施の形態にかかるデジタルカメラシステムの構成〕、〔本実施の形態にかかるデジタルカメラの構成〕、〔本実施の形態にかかるパーソナルコン

ピュータの構成]、[動作例 1]～[動作例 2 3]を順に説明する。

【0080】

[本実施の形態にかかるデジタルカメラシステムの構成]

図 1 は、本実施の形態にかかるデジタルカメラシステムの概略構成例を示している。同図において、100 はデジタルカメラを示し、200 はパーソナルコンピュータ、300 は Web サーバーを示す。デジタルカメラ 100 はパーソナルコンピュータ 200 に接続され、また、ネットワーク 400 を介して Web サーバー 300 に接続されている。

【0081】

パーソナルコンピュータ 200 では、撮影リストを作成し撮影指示ファイルとしてデジタルカメラ 100 に転送する。デジタルカメラ 100 では、撮影指示ファイルを使用して撮影を行う。そして、デジタルカメラ 100 は、撮影した画像をパーソナルコンピュータ 200 に転送したり、Web サーバー 300 にアップロードしたりする。また、デジタルカメラ 100 は、Web サーバー 300 のホームページ上の撮影指示ファイルをダウンロードして、撮影リストを使用して撮影を行う。

【0082】

上記デジタルカメラシステムの基本動作の概略を説明する。まず、パーソナルコンピュータ 200 では、ユーザーが、文書を作成しながら写真の撮影作業の構成（写真の目的、構図、細かな撮影条件、撮影後の作業指示等）を練り、撮影指示ファイルを作成してデジタルカメラに転送する。図 2 は撮影指示ファイルの一例を示す図である。図 2 に示す撮影指示ファイルは、カット No と、カット名と、撮影指示の内容からなる。そして、デジタルカメラ 100 では、ユーザが、パーソナルコンピュータ 200 から転送されてきた撮影指示ファイルの撮影指示を見ながら撮影を行い、撮影した画像をパーソナルコンピュータ 200 に転送する。パーソナルコンピュータ 200 では、デジタルカメラ 100 から転送されてくる画像を選択して文書に貼り付け等を行う。なお、撮影指示ファイルの撮影指示は、図 2 に示したような、操作者に指示を与えるためのテキスト文書や指示図面等の場合もあるが、撮影指示に従った処理をデジタルカメラで自動的に実行させ

るための操作コマンドの場合もある。

【 0 0 8 3 】

[本実施の形態にかかるデジタルカメラの構成]

図 3 は、図 1 のデジタルカメラ 1 0 0 の構成を示すブロック図である。同図において、1 0 0 は、デジタルカメラを示している。デジタルカメラ 1 0 0 は、同図に示す如く、デジタルカメラの全体の制御を行うシステム制御部 1 0 1 と、被写体を撮像して画像データを出力するカメラ部 1 0 2 と、カメラ部 1 0 2 から出力される画像データに対して画像処理等を行う画像データ記録・再生部 1 0 3 と、画像データ等の表示を行う表示部 1 0 4 と、音声データの記録・再生を行うための音声データ記録・再生部 1 0 5 と、ユーザがデジタルカメラに動作指示を与えるための操作部 1 0 6 およびタッチパネル操作部 1 0 7 と、画像データ等の各種データが格納される記録部 1 0 8 と、P C / I F 部 1 0 9 と、カードスロット部 1 1 0 と、電源部 1 1 1 とを備えている。

【 0 0 8 4 】

上記システム制御部 1 0 1 は、上述したように、デジタルカメラの全体を制御するユニットであり、F L A S H _ R O M 1 1 4 に格納されたプログラムに従って、S D - R A M 1 1 3 をワークエリアとして使用してデジタルカメラの各種の制御を行う C P U 1 1 2 と、制御プログラムやフォント、アイコン等が記録された F L A S H _ R O M 1 1 4 と、C P U 1 1 2 のワークエリアとして使用される S D - R A M 1 1 3 とを備えている。また、システム制御部 1 0 1 は、A E ・ A F ・ A W B 処理、画像編集／合成処理（レタッチ・上書き文字等の処理）、撮影リスト処理（リスト作成／フォルダ管理）、暗号化／電子すかし処理等の制御やメモリ制御を行う。

【 0 0 8 5 】

上記カメラ部 1 0 2 は、上述したように被写体を撮像して画像データを出力するためのものであり、被写体像を結像するためのレンズ（ズームレンズ、フォーカスレンズ）、シャッター、およびアイリスや、レンズ（ズームレンズ、フォーカスレンズ）、シャッター、およびアイリス等を駆動するためのモータと、モータを駆動するためのモータドライバ、結像された被写体像を電気信号（アナログ

の画像データ)に変換するCCD、該CCDを駆動するためのCCD駆動回路、CCDから出力される画像データの低雑音化のためのCDS回路、CCDから出力されるアナログの画像データをデジタル信号(デジタル画像データ)に変換するA/D変換器等を備える。

【0086】

画像データ記録・再生部103は、IPP115とフレームメモリ116からなり、カメラ部102のCCD駆動回路を制御してCCD駆動タイミングやレンズ駆動モータを制御してフォーカシングや露出調整、画像信号の圧縮伸長、画像信号を表示部104のLCDに表示するための信号処理を行い、また、ユーザーインターフェースのための種々のグラフィック画像を生成し、表示部104のLCDに表示するためのものである。表示部104は、LCDを備え、画像を表示し、また、ユーザーインターフェースのためのグラフィックを表示するためのものである。

【0087】

上記記録部108には、画像データ、サムネール画像データ、メールデータ、手書きデータ、音声データや、その他のデータが記録される。PC/IF部109は、RS232CやUSB等で外部装置(例えば、パソコン)とデータ通信するためのインターフェースである。カードスロット部110は、PCMCIA規格に準拠したPCカードを差し込むためのアダプターである。PCカードとしては、無線若しくは有線でデータ通信を行うためのデータ通信カード等がカードスロット部に差し込まれる。

【0088】

操作部106は、ユーザがデジタルカメラに動作指示を与えるためのものであり、操作ボタン(リリースキー等)やモードダイヤルと、操作ボタン(リリースキー等)やモードダイヤルの状態を検出してシステム制御部101に通知するキー制御部等を備えている。

【0089】

タッチパネル操作部107は、表示部104のLCDに貼り付けられたタッチパネル部と、タッチパネル部からの入力をCPU112に通知するパネル制御部

とを備えている。

【0090】

音声データ記録・再生部105は、マイク、アンプ、A/D変換器、D/A変換器等を備えており、マイクを介して入力される音声をA/D変換して音声データとしてシステム制御部101に出力し、また、システム制御部101から入力される音声データをD/A変換して、スピーカから出力する。

【0091】

上述のデジタルカメラ100は、静止画撮影、動画撮影、二値画像記録、音声記録が可能となっており、さらに、Eメールの送受信機能、Webブラウジング機能、自動HTML作成機能等を備えている。

【0092】

[本実施の形態にかかるパーソナルコンピュータの構成]

図4は、図1のパーソナルコンピュータ200を示しており、パーソナルコンピュータ200は、操作指示を与える入力部201と、表示部202と、装置全体の制御を司るCPU203と、外部装置とデータ通信を行うデータ通信部204と、記録媒体206のデータのリード/ライトを行う記録媒体ドライブ装置205と、CPU203を動作させるプログラム等を格納した記録媒体206と、およびCPU203のワークエリアとして使用されるRAM207と、を備えている。各部は、バスを介して互いに接続されている。

【0093】

上記入力部201は、カーソルキー、数字入力キーおよび各種機能キー等を備えたキーボード、マウス、並びに画像を読みとるスキャナ等からなる。この入力部201は、必ずしもパーソナルコンピュータ200にローカルに接続される必要はなく、PHS・リモートターミナル（例えば、Personal Digital Assistant）等のリモート装置や、当該パーソナルコンピュータ200と双方向でデータ通信が可能な装置等を入力手段として使用しても良い。また、入力部201は、CPU203に操作コマンドを与えて動作させるためのユーザーインターフェースである。なお、入力部201としては、上記したものに限られるものではなく、タッチパネル、トラックボールや音声認識機構等を用いても良い。

【 0 0 9 4 】

上記表示部 2 0 2 は、C R T (Cathod Ray Tube) L C D (Liquid Crystal Display) や、プラズマディスプレイ等により構成され、C P U 2 0 3 から入力される表示データに応じた表示が行われる。

【 0 0 9 5 】

上記 C P U 2 0 3 は、例えば、3 2 ビットマイクロプロセッサ、他のマイクロプロセッサ、D S P (Digital Signal Processor) や、プログラマブルロジック等からなる。また、C P U 2 0 3 は、必ずしもシングルプロセッサである必要はなく、分散処理をするタイプのものでも良い。この C P U 2 0 3 は、記録媒体 2 0 6 に格納されているプログラムに従って、装置全体を制御する中央制御ユニットであり、この C P U 2 0 3 は、入力部 2 0 1、表示部 2 0 2、通信部 2 0 4、記録媒体ドライブ装置 2 0 5、および R A M 2 0 7 が接続されており、データ通信、メモリへのアクセスによるアプリケーションプログラムの読み出しや各種データのリード/ライト、データ/コマンド入力、カラー表示等を制御する。

【 0 0 9 6 】

上記通信部 2 0 4 は、電話回線、I S D N (Integrated Services Digital Network)、L A N (Local Area Network) や、W A N (Wide Area Network) 等のネットワークに接続され、内蔵したモデム（図示せず）を経て電話回線を介してデータ通信を行う。また、通信部 2 0 4 は、R S 2 3 2 C インターフェースや I r D A インターフェースを備えており、デジタルカメラ等の外部機器と前述の R S 2 3 2 C インターフェースを介してケーブル（有線）によるデータ通信や前述の I r D A インターフェースを介して赤外線（無線）によるデータ通信を行う。

【 0 0 9 7 】

上記記録媒体 2 0 6 は、C P U 2 0 3 が実行可能な O S プログラム（例えば、W I N D O W S）やアプリケーションプログラム等の各種プログラムやデータを格納する。アプリケーションプログラムとしては、例えば、上述したデジタルカメラの撮影リスト等の作成を行うためのデジタルカメラ用プログラム等がある。また、記録媒体 2 0 6 には、デジタルカメラの機種毎の使用可能な機能が登録さ

れた機種テーブルが記憶されている。具体的には、この機種テーブルには、機種コードに対応させて各機種が使用可能な機能（機種能力情報）が登録されている。上述の記録媒体 2 0 6 は、例えば、フロッピーディスク、ハードディスク、C D - R O M、D V D - R O M、M O や P C カード等の光学的・磁氣的・電氣的な記録媒体からなる。上記各種プログラムは、C P U 2 0 3 が直接または間接に解釈可能なオブジェクトコードやソースコード等の形態で記録媒体 2 0 6 に格納されている。記録媒体 2 0 6 に格納されたプログラムはネットワークを介して配信可能である。

【 0 0 9 8 】

上記 R A M 2 0 7 は、指定されたプログラム、入力指示、入力データおよび処理結果等を格納するワークメモリと、表示部 2 0 2 の表示画面に表示する表示データを一時的に格納する表示メモリとを備えている。

【 0 0 9 9 】

パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、記録媒体 2 0 6 に格納されているデジタルカメラ用プログラムを起動して、操作者が撮影指示リストを作成し、作成した撮影リストをデジタルカメラ 1 0 0 に転送する。

【 0 1 0 0 】

つぎに、デジタルカメラ 1 0 0 が、パーソナルコンピュータ 2 0 0 等から転送される撮影リストを使用して撮影する場合の動作例 1 ～動作例 2 3 を説明する。

【 0 1 0 1 】

〔動作例 1〕

動作例 1 を図 5 ～図 7 を参照して説明する。図 5 は動作例 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャート、図 6 は撮影リストファイルの一例、図 7 は表示部 1 0 4 の表示例を示す。動作例 1 では、撮影リストのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択されると記録モードに移行し、リリースキーが押下されると撮影を行い、撮影した画像データの画像ファイルに選択されたカット名を付加させる場合の動作を説明する。

【 0 1 0 2 】

図5において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS1）。図6は、撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が記載されている。つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS2）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部104に表示する（ステップS3）。図7の（A）は、表示部104に表示される撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。

【0103】

システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS5）。図7（B）は、図7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー98”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー98”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【0104】

システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS6）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影モードに移行し、撮影可能状態とする（ステップS7）。ここで、操作者はカット名に対応する被写体を選択し、撮影を行うことになる。

【0105】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のリリースキーが押下されると、被写体を撮影する（ステップS8）。撮影後、”カット名を撮影した画像のEXIFファイル（画像ファイル）内に記録するか否か”の選択を促すメッセージを表示部104に表示し、操作者のタッチパネル部107の操作で、”カット名を撮影した画像のEXIFファイル（画像ファイル）内に記録する”が選択

されたか否かを判断する（ステップ S 9）。” カット名を撮影した画像の E X I F ファイル（画像ファイル）内に記録する” が選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、カット名を E X I F ファイル（画像ファイル）のヘッダー（パラメータ）内にカット名を付加し（ステップ S 1 0）、撮影した画像データを記録部 1 0 8 に E X I F ファイル（画像ファイル）として格納する（ステップ S 1 1）。

【 0 1 0 6 】

他方、ステップ S 9 で、” カット名を撮影した画像の E X I F ファイル内に記録しない” が選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、カット名を E X I F ファイルのパラメータ（ヘッダー）内に付加しないで、記録部 1 0 8 に撮影した画像データを E X I F ファイル（画像ファイル）として格納する（ステップ S 1 1）。

【 0 1 0 7 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 0 8 】

以上説明したように、上記動作例 1 によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択されると記録モード（撮影モード）に移行し、リリースキーが押下されると撮影を行い、撮影した画像データの画像ファイルのパラメータ内に選択されたカット名を付加することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 0 9 】

〔動作例 2〕

動作例 2 を図 8 を参照して説明する。図 8 は動作例 2 におけるデジタルカメラ

1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 では、撮影指示ファイルのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択された後、記録（静止画撮影、動画撮影、音声記録、二値画像記録）されたデータ（静止画、動画、音声、二値画像）のファイルを、選択されたカット名に関連づけて記憶する場合の動作を説明する。

【0 1 1 0】

図 8 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 1）。上記図 6 は撮影リストのフォーマットの一例である。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が記載されている。

【0 1 1 1】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに移行し、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 3）。上記図 7 の（A）は、撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。

【0 1 1 2】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断し（ステップ S 2 4）、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 5）。上記図 7（B）は、上記図 7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択された場合の撮影リス”ビジネスショー 9 8”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【0 1 1 3】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択さ

れると記録モード（撮影モード）に移行し、記録可能状態とする（ステップ S 2 7）。そして、操作者の操作部 1 0 6 の操作で記録が指示されると（ステップ S 2 8）、システム制御部 1 0 1 は、関連ファイルの作成を行うか否かの選択を促すメッセージを表示部 1 0 4 に表示する。

【 0 1 1 4 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で、“関連ファイルの作成を行う”が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 9）。“関連ファイルの作成を行う”が選択されたか場合には、システム制御部 1 0 1 は、記録指示が静止画の記録である場合には（ステップ S 3 0）、静止画撮影を行い（ステップ S 3 4）、動画の記録である場合には（ステップ S 3 1）、動画撮影を行い（ステップ S 3 5）、音声の記録である場合には（ステップ S 3 2）、音声記録処理を行い（ステップ S 3 6）、二値画である場合には（ステップ S 3 3）、二値画像を記録し（ステップ 3 7）、ステップ S 3 8 に移行する。

【 0 1 1 5 】

さて、ステップ S 3 8 では、関連ファイル保存処理を実行し、取り込んだ記録データを EXIF ファイルとして記録部 1 0 8 に格納すると共に、取り込んだ記録データのファイルを撮影リストに、選択されたカット名に関連させて登録する。他方、ステップ S 2 9 で、関連ファイルを作成しないが選択された場合には、記録指示に従って記録を行い取り込んだ記録データを EXIF ファイルとして格納する（ステップ S 3 9）。

【 0 1 1 6 】

図 9 は、上記図 6 の撮影リスト（未撮影）の撮影後のフォーマットの一例を示す。同図に示すように、カット名が選択された後に記録された記録データの記録ファイルのファイル名がカット名の下に登録される。

【 0 1 1 7 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使

用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0118】

以上説明したように、動作例2によれば、撮影リストのカット名が選択された後に、記録した記録データの記録ファイルを選択されたカット名に関連づけて撮影リストに登録することとしたので、使用者は、撮影の段階では、撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【0119】

〔動作例3〕

動作例3を図10を参照して説明する。図10は、動作例3におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例3では、撮影リストのカット名が選択された後に、撮影した画像データの画像ファイルのファイル名が選択されたカット名を含むようにファイル名を作成する場合の動作を説明する。

【0120】

図10において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS41）。上記図6は撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれている。つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS42）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部104に表示する（ステップS43）。

【0121】

上記図7の（A）は、撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影

リストが選択されたか否かを判断する（ステップS44）。そして、撮影リストが選択されると、システム制御部101は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS45）。上記図7（B）は、上記図7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー98”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー98”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【0122】

システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS46）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影モードに移行し、撮影可能状態とする（ステップS47）。これにより、使用者はカット名の被写体の取り忘れを防止できる。そして、操作部106のリリースキーの操作に応じて撮影を行う（ステップS48）。

【0123】

撮影後、システム制御部101は、”ファイル名をカット名にするか否か”の選択を促すメッセージを表示部104に表示し、操作者のタッチパネル部107の操作で、”ファイル名をカット名にする”が選択されたか否かを判断する（ステップS49）。操作者のタッチパネル操作部107の操作で、”ファイル名をカット名にする”が選択された場合には、ステップS50に移行し、システム制御部101は、画像が複数あるか否かを判断する。この判断の結果、画像が複数ない場合にはステップS52に移行する一方、画像が複数ある場合には、ステップS51に移行して、ファイル名を連番処理してステップS52に移行する。具体的には、連番処理では、例えば、”写真1”が3枚ある場合には、”写真1～1”、“写真1～2”、“写真1～3”のような処理を行う。

【0124】

さて、ステップS52では、選択したカット名を読み出して画像ファイルのファイル名をカット名を含むファイル名とし（ステップS52）、撮影した画像ファイルを記録部108にEXIFファイルとして格納する（ステップS53）。

【0125】

他方、ステップ S 4 9 で、“ファイル名をカット名を含むファイル名にする”が選択されなかった場合には、カット名を含まない通常のファイル名で撮影した画像ファイルを E X I F ファイルとして格納する（ステップ S 5 3）。

【 0 1 2 6 】

ここで、カット名を含むファイル名の具体例を説明する。例えば、カット名“R I C O H”が選択され、撮影された画像が 1 枚の場合には、ファイル名を、“R I C O H . j p g”とする。また、例えば、カット名“C A M O N”が選択され、撮影された画像が 3 枚の場合には、各ファイル名は、“C A M O N 0 1 . j p g”、“C A M O N 0 2 . j p g”、“C A M O N 0 3 . j p g”と連番とする。

【 0 1 2 7 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 2 8 】

以上説明したように、上記動作例 3 によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示し、表示されたカット名の中からカット名を選択し、その後撮影されて得られる画像データのファイル名の少なくとも一部にカット名を含むようにしたので、使用者は、撮影の段階では、撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 2 9 】

〔動作例 4〕

動作例 4 を図 1 1 および図 1 2 を参照して説明する。図 1 1 は動作例 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャート、図 1 2 は画像データに選択されたカット名を合成する場合を説明するための説明図を示す。動作例 4 では、撮影リストのカット名が選択された後に、撮影した画像データに

カット名を合成する場合の動作を説明する。

【0130】

図11において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS61）。上記図6は撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれている。つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS62）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部104に表示する（ステップS63）。

【0131】

図7の（A）は、表示部104の撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS64）。そして、システム制御部101は、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS65）。

【0132】

上記図7（B）は、上記図7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー98”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー98”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【0133】

システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS66）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影モードに移行し、撮影可能状態となる（ステップS67）。これにより、使用者はカット名の被写体の取り忘れを防止できる。そして、操作部106のリリースキーの操作に応じて撮影を行う（ステップS68）。

【0134】

撮影後、システム制御部 1 0 1 は、カット名を撮影した画像に合成するか否かの選択を促すメッセージを表示部 1 0 4 に表示する。システム制御部 1 0 1 は、操作者の操作部 1 0 6 の操作で” カット名を撮影した画像に合成する” が選択されたか否かを判断する（ステップ S 6 9）。そして、操作者の操作部 1 0 6 の操作で、カット名を撮影した画像に合成するが選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像にカット名を合成し、合成画像の画像ファイルを作成する（ステップ S 7 0）。そして、この画像ファイルを記録部 1 0 8 に EX I F ファイルとして格納する（ステップ S 7 1）。他方、ステップ S 6 9 で、” カット名を撮影した画像に合成する” が選択されなかった場合には、撮影した画像の EX I F ファイルを記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 7 1）。

【 0 1 3 5 】

図 1 2 は撮影した画像にカット名を合成した合成画像を説明するための図である。例えば、カット名として、” R I C O H” が選択された後、図 1 2 の（A）に示す画像が撮影された場合に、カット名” R I C O H” を図 1 2 の（A）に示す撮影画像に合成して、図 1 2 の（B）に示すような合成画像を作成する。

【 0 1 3 6 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 3 7 】

以上説明したように、上記動作例 4 によれば、撮影リストを表示部 1 0 4 に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、その後撮影されて得られる画像データにカット名を合成することとしたので、使用者は、撮影の段階では撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 3 8 】

〔動作例 5〕

動作例 5 を図 1 3 および図 1 4 を参照して説明する。図 1 3 は動作例 5 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 5 では、撮影リストのカット名を表示し、そして撮影リスト中のカット名を選択し、選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）の表示を行い、ユーザが表示される撮影方法に従って撮影し、また、表示される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【0 1 3 9】

図 1 3 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 8 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）がテキスト文書で登録されている。

【0 1 4 0】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の NOBNAVI ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 8 2）、操作部 1 0 6 の NOBNAVI ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 8 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 8 4）。

【0 1 4 1】

そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 8 5）。そして、システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 8 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると、撮影モードに移行し、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断する（ステップ S 8 7）。

【 0 1 4 2 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し（ステップ S 8 8）、撮影方法の指示でないと判断した場合には、ステップ S 9 0 に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップ S 8 9 に移行する。ステップ S 8 9 では、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影方法の指示（撮影指示情報）を表示部 1 0 4 に表示する。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 4 3 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 のリリースキーの押下に応じて撮影を行う（ステップ S 9 0）。ここでは、撮影ポイントが複数ある場合には、複数回の撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影が終了したか否かを判断し（ステップ S 9 1）、撮影が終了した場合には、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップ S 9 2）、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップ S 9 5 に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する。

【 0 1 4 4 】

他方、ステップ S 9 2 で、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップ S 9 3 に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を表示部 1 0 4 に表示する。これにより、ユーザーは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【 0 1 4 5 】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部 1 0 6 を介してシステム制御部 1 0 1 に与え、システム制御部 1 0 1 は、指示される撮影後の処理を実行する（ステップ S 9 4）。ここで、撮影後の処理の指示としては、例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 9 5）。

【 0 1 4 6 】

他方、ステップ S 8 7 で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップ S 9 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行って、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 9 7）。

【 0 1 4 7 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 4 8 】

なお、撮影指示情報は、上述したテキスト文書に限らず、例えば、図面を使用することにしても良い。図 1 4 は図面の撮影指示情報の一例を示しており、特に、撮影の方法（撮影のポイント）のガイダンス図面を示している。これによれば、使用者は、この図面の撮影の方法（撮影のポイント）の指示に従って被写体を選択して撮影することが可能となる。また、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に表示する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【 0 1 4 9 】

以上説明したように、上記動作例 5 によれば、撮影リストのカット名を表示し、そして撮影リスト中のカット名を選択し、選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）の表示を行い、ユーザが表示される撮影方法に従って撮影し、また、表示される撮影後の処理の指示に従って処理を行うこととしたので、使用者は、表示される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 1 5 0 】

〔動作例 6〕

動作例 6 を図 1 5 を参照して説明する。図 1 5 は動作例 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 6 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を音声で出力し、ユーザが音声で出力される撮影方法の指示に従って撮影し、また、音声で出力される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【 0 1 5 1 】

図 1 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 0 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）が音声情報で登録されている。

【 0 1 5 2 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 1 0 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 0 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 0 4）。

【 0 1 5 3 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 0 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 0 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮

影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断する（ステップS107）。

【0154】

システム制御部101は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し（ステップS108）、撮影方法の指示でないと判断した場合には、ステップS110に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップS109に移行する。ステップS109では、システム制御部101は、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影方法の指示（撮影指示情報）を音声記録・再生部から音声で出力する（ステップS109）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【0155】

そして、操作部106のリリースキーの押下に応じて撮影を行う（ステップS110）。ここで、撮影ポイントが複数ある場合には、複数回の撮影が行われる。そして、システム制御部101は撮影が終了したか否かを判断し（ステップS111）、撮影が終了すると、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップS112）、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップS115に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部108に保存する。

【0156】

他方、ステップS112で、システム制御部101は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップS113に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を音声記録・再生部から音声で出力する。これにより、ユーザーは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【0157】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部106を介してシステム制御部101に与え、システム制御部101は、指示される撮影後

の処理を実行する（ステップ S 1 1 4）。ここで、撮影後の処理の指示としては、例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 1 1 5）。

【 0 1 5 8 】

他方、ステップ S 1 0 7 で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップ S 1 1 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行って（ステップ S 1 1 6）、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 1 7）。

【 0 1 5 9 】

なお、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に音声で出力する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【 0 1 6 0 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 6 1 】

以上説明したように、上記動作例 6 によれば、ユーザが撮影リストのカット名を選択し、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を音声で出力し、ユーザが音声で出力される撮影方法に従って撮影し、また、音声で出力される撮影後の処理の指示に従って処理を行うこととしたので、使用者は、音声で出力される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 1 6 2 】

〔動作例 7〕

動作例 7 を図 1 6 を参照して説明する。図 1 6 は、動作例 7 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 7 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を動画で再生し、ユーザが動画で再生される撮影方法の指示に従って撮影し、また、動画で再生される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【0 1 6 3】

図 1 6 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 2 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）が動画で登録されている。

【0 1 6 4】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 1 2 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 2 3）。ユーザにより撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 2 4）。

【0 1 6 5】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 2 5）。そして、ユーザのタッチパネル操作部 1 0 7 の操作によりカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断

する（ステップ S 1 2 7）。

【 0 1 6 6 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し（ステップ S 1 2 8）、撮影方法の指示でないと判断した場合には、ステップ S 1 3 0 に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップ S 1 2 9 に移行する。ステップ S 1 2 9 では、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影方法の指示（撮影指示情報）を表示部 1 0 4 で動画で再生する（ステップ S 1 2 9）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 6 7 】

ステップ S 1 3 0 では、操作部 1 0 6 のリリースキーの押下に応じて撮影を行う。ここで、撮影ポイントが複数ある場合には、複数回の撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影が終了したか否かを判断し（ステップ S 1 3 1）、撮影が終了した場合には、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップ S 1 3 2）、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップ S 1 3 5 に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する。他方、ステップ S 1 3 2 で、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップ S 1 3 4 に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を表示部 1 0 4 で動画で再生する。これにより、ユーザーは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【 0 1 6 8 】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部 1 0 6 を介してシステム制御部 1 0 1 に与え、システム制御部 1 0 1 は、指示される撮影後の処理を実行する（ステップ S 1 3 4）。ここで、撮影後の処理の指示としては、例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 1 3 5）。

【 0 1 6 9 】

他方、ステップ S 1 2 7 で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップ S 1 3 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行って、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 3 7）。

【 0 1 7 0 】

なお、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に動画で表示部 1 0 4 に出力する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【 0 1 7 1 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 7 2 】

以上説明したように、上記動作例 7 によれば、ユーザが撮影リストのカット名を選択し、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を動画で出力し、ユーザが動画で出力される撮影方法の指示に従って撮影し、また、動画で出力される撮影後の処理の指示に従って処理を行うこととしたので、使用者は、動画で出力される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 1 7 3 】

〔動作例 8〕

動作例 8 を図 1 7 を参照して説明する。図 1 7 は動作例 8 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 8 では、撮

影リストのカット名の一覧を表示し、カット名が選択された後に、記録モードに移行し、当該記録モードで記録した記録データを、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理する場合の動作例を説明する。

【0174】

図17において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS141）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図6参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図18に示す操作指示コマンドが使用される。

【0175】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS142）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部104に表示する（ステップS143）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS144）。

【0176】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS145）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS146）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップS147）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0177】

そして、システム制御部101は、操作部106のリリースキーが押下されると撮影を行う（ステップS148）。つづいて、システム制御部101は、選択されたカット名に対応する記録後の指示があるか否かを判断し（ステップS14

9)、撮影リストに選択されたカット名に対応する記録後の指示があると判断した場合には、当該選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って画像を処理する(ステップS150)。処理した画像を画像ファイルとして記録部108に保存する(ステップS151)。

【0178】

なお、デジタルカメラ100では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ200に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ200の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用(報告書の作成等)することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0179】

以上説明したように、上記動作例8によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示し、カット名が選択された後に、記録モードに移行し、当該記録モードで記録した記録データを、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影後の処理を自動化することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【0180】

[動作例9]

動作例9を図19を参照して説明する。図19は動作例9におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例9では、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、メールに記録した記録データを添付して指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【0181】

図19において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する(ステップS161)。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており(図6参照)、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。

この記録後の指示には、図18に示す操作指示コマンドが使用される。図20は撮影の後処理として画像をメールで送るコマンドの例を示す。

【0182】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS162）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部104に表示する（ステップS163）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS164）。

【0183】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS165）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS166）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップS167）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0184】

そして、システム制御部101は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部108から読み出し（ステップS168）、記録後の指示がメール添付転送であるか否かを判断する（ステップS169）。

【0185】

システム制御部101は、記録後の指示がメール添付転送である場合には、記録モードが、静止画、動画、2値画、音声のいずれであるかを判断し（ステップS170～S173）、記録した静止画、動画、2値画、および音声のいずれかのメール添付ファイルを作成する（ステップS174）。そして、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップS175）。他方、ステップS169で、記録後の指示がメール添付転送でないと判断し

た場合には、通常の撮影リストモードで撮影を行い（ステップ S 1 7 6）、撮影した画像のファイルを記録部 1 0 8 に記憶する（ステップ S 1 7 7）。

【0 1 8 6】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0 1 8 7】

以上説明したように、上記動作例 9 によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、メールに記録した記録データを添付して指定される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像等をメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【0 1 8 8】

[動作例 1 0]

動作例 1 0 を図 2 1 を参照して説明する。図 2 1 は動作例 1 0 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 0 では、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付転送の場合には、撮影した画像のサムネール画像をメールに添付して指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【0 1 8 9】

図 2 1 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 8 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。

この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。図 2 0 は記録後の処理として画像をメールで送るコマンドの例を示す。

【0190】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 1 8 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 8 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 8 4）。

【0191】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 8 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 8 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 1 8 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0192】

この後、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 1 8 8）、記録後の指示がメール添付転送であるか否かを判断する（ステップ S 1 8 9）。

【0193】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、記録後の指示がメール添付転送である場合には、さらに、サムネール添付転送か否かを判断する（ステップ S 1 9 0）。記録後の指示がサムネール添付転送である場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像データのサムネール画像を作成し、サムネール画像をメールに添付したメール添付ファイルを作成する（ステップ S 1 9 1）。その後、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップ S 1 9

2)。他方、ステップS 1 8 9で記録後の指示がメール転送でないと判断した場合およびステップS 1 9 0でサムネール添付転送でないと判断した場合には、ステップS 1 9 3に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部1 0 8に画像ファイルとして格納する（ステップS 1 9 4）。

【0 1 9 4】

なお、デジタルカメラ1 0 0では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ2 0 0に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ2 0 0の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0 1 9 5】

以上説明したように、上記動作例1 0によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付転送の場合には、撮影した画像のサムネール画像をメールに添付して指定される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像のサムネール画像をメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【0 1 9 6】

[動作例1 1]

動作例1 1を図2 2を参照して説明する。図2 2は動作例1 1におけるデジタルカメラ1 0 0側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例1 1では、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示が画像変倍送信である場合に、撮影した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【0 1 9 7】

図2 2において、まず、デジタルカメラ1 0 0では、パーソナルコンピュータ2 0 0と接続して撮影リストを読み込み、記録部1 0 8に格納する（ステップS

201)。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図6参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図18に示す操作指示コマンドが使用される。

【0198】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS202）、操作部106のNOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部104に表示する（ステップS203）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS204）。

【0199】

そして、撮影リストが選択されると、システム制御部101は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS205）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS206）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップS207）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0200】

この後、システム制御部101は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部108から読み出し（ステップS208）、記録後の指示が画像変倍送信であるか否かを判断する（ステップS209）。記録後の指示が画像変倍送信指示である場合には、撮影した画像をデータ記録再生部で指定された倍率で変倍し（ステップS210）、システム制御部101は変倍した画像をメールに添付してメール添付ファイルを作成する（ステップS211）。その後、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップS212）。他方、ステップS209で記録後の指示が画像変倍送信で

ないと判断した場合には、ステップ S 2 1 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 2 1 4）。

【 0 2 0 1 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 0 2 】

以上説明したように、上記動作例 1 1 によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示が画像変倍送信である場合に、撮影した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、指定される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像を指定される倍率で変倍しメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 0 3 】

〔動作例 1 2〕

動作例 1 2 を図 2 3 を参照して説明する。図 2 3 は動作例 1 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 2 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホームページへのアップロードである場合に、撮影した画像の HTML ファイルを作成して、指定されるホームページにアップロードする場合の動作を説明する。

【 0 2 0 4 】

図 2 3 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 2 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。

この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。図 2 4 は、記録後の指示として画像を W e b サーバー 3 0 0 にアップロードするコマンドの例を示す。

【 0 2 0 5 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2 2 2）、操作部 1 0 6 の N O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 2 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 2 4）。

【 0 2 0 6 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 2 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 2 2 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 0 7 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出す（ステップ S 2 2 8）。そして、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じて撮影を行う（ステップ S 2 2 9）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、読み出した記録後の指示がホームページへのアップロードであるか否かを判断し（ステップ S 2 3 0）、記録後の指示が画像のホームページへのアップロードである場合には、撮影画像を HTML ファイルにまとめてアップロード可能な形式にする（ステップ S 2 3 1）。そして、通信モードに移行して、HTML ファイルを指定されるホームページにアップロードする（ステップ S 2 3 2）。

【 0 2 0 8 】

他方、ステップ S 2 3 0 で、記録後の指示が画像のホームページアップへのロードでない場合には、ステップ S 2 3 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 2 3 4）。

【 0 2 0 9 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 1 0 】

以上説明したように、上記動作例 1 2 によれば、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホームページへのアップロードである場合に、撮影した画像の HTML ファイルを作成して、指定されるホームページにアップロードすることとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像をホームページに自動的にアップロードすることができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 1 1 】

〔動作例 1 3〕

動作例 1 3 を図 2 5 を参照して説明する。図 2 5 は動作例 1 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 3 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホームページへのアップロードおよびそのホームページの URL の通知の場合に、撮影した画像を指定されるホームページにアップロードし、かつ、当該ホームページの URL をメールにて指定される宛先に送信する場合の動作を説明する。

【 0 2 1 2 】

図 2 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ

2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 4 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。図 2 4 は記録後の指示として画像を W e b サーバーにアップロードするコマンドの例を示す。

【 0 2 1 3 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2 4 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 4 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 4 4）。

【 0 2 1 4 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 4 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 4 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 2 4 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 1 5 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出す（ステップ S 2 4 8）。そして、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じて撮影を行う（ステップ S 2 4 9）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、読み出した記録後の指示がホームページへのアップロードであるか否かを判断し（ステップ S 2 5 0）、読み出した記録後の指示がホームページへのアップロードである場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影画

像をHTMLファイルにまとめてアップロード可能な形式にする（ステップS 2 5 1）。

【 0 2 1 6 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、記録後の指示がメールによるURL通知があるか否かを判断し（ステップS 2 5 2）、記録後の指示にメールによるURL通知がない場合にはステップS 2 5 4に移行する一方、記録後の指示にメールによるURL通知指示がある場合には、本文中にアップロード先のURLを挿入したメールファイルを作成して（ステップS 2 5 3）、ステップS 2 5 4に移行する。ステップS 2 5 4では、HTMLファイルを指定されるホームページにアップロードし、また、ステップS 2 5 3でメールファイルを作成した場合には、指定される宛先にメールファイルを送信する。

【 0 2 1 7 】

他方、ステップS 2 5 0で、記録後の指示がホームページへのアップロードでない場合には、ステップS 2 5 5に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8に画像ファイルとして格納する（ステップS 2 5 6）。

【 0 2 1 8 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 1 9 】

以上説明したように、上記動作例 1 3によれば、撮影リストを表示部 1 0 4に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホームページへのアップロードおよびそのホームページのURLの通知の場合に、撮影した画像を指定されるホームページにアップロードし、かつ、当該ホームページのURLをメールにて指定される宛先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では

必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像をホームページに自動的にアップロードできるとともに、当該ホームページのURLをメールにて指定される宛先に自動的に送信することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 2 0 】

なお、動作例 5 ～動作例 1 3 では、撮影リストでは、カット名毎に記録後（撮影後）の指示を登録しているが、撮影リストで、カット名毎の指示ではなく、撮影リスト全体としての指示を与える形式にしても良い。例えば、全てのカット名の記録（撮影）が終了した場合に指示を与える形式にしても良い。例えば、上述の動作例 1 2 および動作例 1 3 では、撮影リストにより、撮影リストの全てのカット名の記録が終了した場合に、記録した画像を纏めてホームページにアップロードすることを指示することにしても良い。

【 0 2 2 1 】

〔動作例 1 4〕

動作例 1 4 を図 2 6 を参照して説明する。図 2 6 は動作例 1 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 4 では、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力である場合には、撮影後、メモ入力モードになり、入力されるメモのファイルを撮影した画像データの画像ファイルの関連ファイルとして保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 2 2 】

図 2 6 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 6 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 2 2 3 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2 6 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I

ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 6 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 6 4）。

【 0 2 2 4 】

そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 6 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 6 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 2 6 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 2 5 】

そして、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 2 6 8）、記録後の指示が、メモ入力の指示であるか否かを判断する（ステップ S 2 6 9）。選択されたカット名に対応する撮影後指示がメモ入力の指示である場合には、ステップ S 2 7 0 に移行し、操作部 1 0 6 のリリースキーの押下に応じて被写体を撮影する。撮影した被写体の画像データは記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 2 7 0）。

【 0 2 2 6 】

この後、システム制御部 1 0 1 は、メモ入力モードに移行し（ステップ S 2 7 1）、タッチパネル操作部 1 0 7 上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されたか否かを判断し（ステップ S 2 7 2）、ソフトキーボード入力を選択するキーが選択された場合には、使用者により、ソフトウェアキーボードでテキスト文字が入力され（ステップ S 2 7 3）、入力されたテキスト文字を関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 2 7 4）。他方、ステップ S 2 7 2 で、タッチパネル操作部 1 0 7 上でソフトキーボード入力を選択するキーが選

択されなかった場合には、使用者により、タッチパネル操作部 1 0 7 上でタッチペンを使用して手書き文字が入力され（ステップ S 2 7 5）、入力された手書き文字を関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 2 7 4）。

【 0 2 2 7 】

他方、ステップ S 2 6 9 で、撮影後指示がメモの入力指示でないと判断した場合には、ステップ S 2 7 6 に移行し、通常撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に E X I F 形式の画像ファイルとして格納する（ステップ S 2 7 7）。

【 0 2 2 8 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 2 9 】

以上説明したように、動作例 1 4 によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力である場合には、メモ入力モードになり、入力されるメモのファイルを撮影した画像ファイルの関連ファイルとして保存することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に関係するメモを関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 2 3 0 】

[動作例 1 5]

動作例 1 5 を図 2 7 を参照して説明する。図 2 7 は動作例 1 5 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 4 では、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力画像合成である場合には、撮影後、メモ入力モードになり、入力されるメモ情報を、撮影した画像に合成して保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 3 1 】

図 2 7 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 9 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 2 3 2 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2 9 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 9 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 9 4）。

【 0 2 3 3 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 9 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 9 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 2 9 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 3 4 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 2 9 8）、記録後の指示が、メモ入力画像合成の指示であるか否かを判断する（ステップ S 2 9 9）。選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力画像合成の指示である場合には、ステップ S 3 0 0 に移行し、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じて、被写体を撮影する。

【 0 2 3 5 】

その後、メモ入力モードに移行し（ステップ S 3 0 1）、タッチパネル操作部 1 0 7 上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されたか否かを判断し（ステップ S 3 0 2）、ソフトキーボード入力を選択するキーが選択された場合には、使用者により、ソフトキーボードでテキスト文字が入力され（ステップ S 3 0 3）、システム制御部 1 0 1 は、入力されたテキスト文字を撮影した画像に合成して合成画像を作成して、この合成画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 0 4）。

【 0 2 3 6 】

他方、ステップ S 2 9 9 で、タッチパネル操作部 1 0 7 上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されなかった場合には、使用者により、タッチパネル操作部 1 0 7 上でタッチペンを使用して手書き文字が入力され（ステップ S 3 0 5）、システム制御部 1 0 1 は、入力された手書き文字を撮影した画像に合成して合成画像を作成し、この合成画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 0 4）。

【 0 2 3 7 】

一方、ステップ S 2 9 9 で、記録後の指示がメモ入力画像合成の指示でないと判断した場合には、ステップ S 3 0 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 0 7）

【 0 2 3 8 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 3 9 】

以上説明したように、動作例 1 5 によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力の画像合成である場合

には、撮影後、メモ入力モードになり、入力されるメモ情報を、撮影した画像に合成して保存することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に係るメモを撮影した画像に合成して保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 2 4 0 】

〔動作例 1 6〕

動作例 1 6 を図 2 8 を参照して説明する。図 2 8 は、動作例 1 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 6 では、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示が、音声入力である場合には、撮影後、音声入力モードになり、入力される音声を撮影した画像ファイルの関連ファイルとして保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 4 1 】

図 2 8 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 1 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 2 4 2 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 3 1 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 1 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 1 4）。

【 0 2 4 3 】

そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮

影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 1 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 1 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 3 1 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 4 4 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 3 1 8）、記録後の指示が、音声入力の指示であるか否かを判断する（ステップ S 3 1 9）。記録後の指示が音声入力の指示である場合には、ステップ S 3 2 0 に移行する。ステップ S 3 2 0 では、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じた、被写体を撮影する。撮影した画像データは画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する。その後、システム制御部 1 0 1 は、音声入力モードに移行し（ステップ S 3 2 1）、音声記録・再生部を介して入力される音声の音声ファイルを撮影した画像の画像ファイルの関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 2 2）。

【 0 2 4 5 】

他方、ステップ S 3 1 9 で、記録後の指示が、音声の入力指示でないと判断した場合には、ステップ S 3 2 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 2 4）。

【 0 2 4 6 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 4 7 】

以上説明したように、動作例 1 6 によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示が音声入力である場合には、音声入力モードになり、入力される音声の音声ファイルを撮影した画像の画像ファイルの関連ファイルとして保存することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に関係する音声に関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【0 2 4 8】

〔動作例 1 7〕

動作例 1 7 を図 2 9 を参照して説明する。図 2 9 は動作例 1 7 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 7 では、デジタルカメラで、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する場合の動作を説明する。

【0 2 4 9】

まず、デジタルカメラは、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 3 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップ S 3 3 2）、記録後の指示が撮影終了の自動報告指示であるか否かを判断する（ステップ S 3 3 3）。

【0 2 5 0】

システム制御部 1 0 1 は、記録後の指示が、自動報告指示である場合には、ステップ S 3 3 4 に移行する。ステップ S 3 3 4 では、カット名が選択されて撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が全て終了したか否かを判断する（ステップ S 3 3 5）。撮影リストのカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップ S 3 3 4 に戻る一方、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した場合には、ステップ S 3 3 6 に移行して、シス

テム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した旨を示す撮影終了メールファイルを作成する。

【 0 2 5 1 】

そして、通信モードに移行し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に撮影終了メールファイルを送信し、撮影終了報告を行う（ステップ S 3 3 7）。他方、ステップ S 3 3 3 で、記録後の指示が撮影終了の自動報告でないと判断した場合には、通常の撮影リストモードで撮影を行い（ステップ S 3 3 8）、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 3 9）。

【 0 2 5 2 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 5 3 】

以上説明したように、動作例 1 6 によれば、デジタルカメラで、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送することとしたので、撮影リストの作業を終了したか否かを指示者が把握することが可能となる。

【 0 2 5 4 】

[動作例 1 8]

動作例 1 8 を図 3 0 を参照して説明する。図 3 0 は動作例 1 8 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 8 では、デジタルカメラ 1 0 0 で、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に通知する場合の動作を説明する。

【 0 2 5 5 】

まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、

システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 5 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップ S 3 5 2）、記録後の指示が撮影終了の自動報告指示であるか否かを判断する（ステップ S 3 5 3）。

【 0 2 5 6 】

システム制御部 1 0 1 は、記録後の指示が、自動報告指示である場合には、ステップ S 3 5 4 に移行する。ステップ S 3 5 4 では、カット名が選択されて撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了したか否かを判断する（ステップ S 3 5 5）。ここで、自動報告ポイントとしては、撮影リストの撮影が所定枚数終了した場合や、所定数のカット名の撮影が終了した場合などとすることができる。

【 0 2 5 7 】

撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了していない場合にはステップ S 3 5 4 に戻る一方、撮影リストのカット名の撮影が自動報告終了ポイントまで終了した場合には、ステップ S 3 5 6 に移行して、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が自動報告終了ポイントまで終了した旨を示す報告メールファイルを作成する（ステップ S 3 5 6）。つづいて、通信モードに移行し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に報告メールファイルを送信する（ステップ S 3 5 7）。

【 0 2 5 8 】

他方、ステップ S 3 5 3 で、記録後の指示が撮影終了の自動報告指示でない場合には、ステップ S 3 5 8 に移行して通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 5 9）。

【 0 2 5 9 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮

影リストを作成したパーソナルコンピュータ200の利用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0260】

以上説明したように、動作例17によれば、デジタルカメラで、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ200に転送することとしたので、撮影リストの作業の進行状況を指示者が把握することが可能となる。

【0261】

〔動作例19〕

動作例19を図31を参照して説明する。図31は動作例19におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例19では、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影した画像をグループ化して保存する場合の動作を説明する。

【0262】

図31において、まず、デジタルカメラ100は、パーソナルコンピュータ200から転送されてくる撮影リストファイルを記録部108に格納しているものとする。そして、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部108に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部104に表示する（ステップS361）。そして、システム制御部101は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップS362）、記録後の指示がグループ化の指示であるか否かを判断する（ステップS363）。撮影リストにグループ化の指示がある場合には、ステップS364に移行する。ステップS364では、カット名が選択された後、撮影が行われる。

【0263】

そして、システム制御部101は、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了したか否かを判断する（ステップS365）。撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップS364に戻る一方、撮影リスト上のカ

ット名の撮影が全て終了した場合には、グループ化の処理を行う（ステップ S 3 6 6）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、同一フォルダに入れるか否かの選択を促すメッセージが表示部 1 0 4 に表示する。使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一フォルダに入れるが選択された場合には（ステップ S 3 6 7）、撮影リストのフォルダを指定して、撮影リスト内の全カット名に対応する記録ファイルを登録する（ステップ S 3 6 8）。他方、ステップ S 3 6 7 で使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一のフォルダに入れるが選択されなかった場合には、撮影リストのフォルダの下層にカット名毎のフォルダを作成し（ステップ S 3 6 9）、対応するカット名のフォルダに画像ファイルを登録し（ステップ S 3 7 0）、すべてのカットのグループ保存が終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 3 6 9 ～ ステップ S 3 7 1）。

【 0 2 6 4 】

他方、ステップ S 3 7 2 で、撮影リストにグループ化の指示がない場合には、ステップ S 3 7 2 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 7 3）

【 0 2 6 5 】

図 3 2 は、撮影済み撮影画像のフォルダ構成の一例を示す図である。同図では、撮影リストごとにフォルダが生成されて、その中に撮影済み撮影リストファイルと、撮影画像が格納されている例を示す。

【 0 2 6 6 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 6 7 】

以上説明したように、動作例 1 9 によれば、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影した画像ファイルをグループ化してフォルダに登録することとしたので、ファイル管理が容易となる。

【 0 2 6 8 】

〔動作例 2 0〕

動作例 2 0 を図 3 3 を参照して説明する。図 3 3 は動作例 2 0 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 0 では、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影リストに従って記録した、静止画、動画、音声、二値化画像等を、静止画、動画、音声、二値化画像別にグループ化して保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 6 9 】

図 3 3 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 8 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップ S 3 8 2）、記録後の指示がグループ化の指示であるか否かを判断する（ステップ S 3 8 3）。撮影リストにグループ化の指示がある場合には、ステップ S 3 8 4 に移行する。ステップ S 3 8 4 では、カット名が選択された後、撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了したか否かを判断する（ステップ S 3 8 5）。

【 0 2 7 0 】

撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップ S 3 8 4 に戻る一方、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了した場合には、グループ化の処理を行う（ステップ S 3 8 6）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、同一のフォルダに入れるか否かの選択を促すメッセージが表示部 1 0 4 に表示する。使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一グループに入れるが選択された場合には（ステップ S 3 8 7）、撮影リストのフォルダを指定して、撮影リスト内の全カット名に対応する記録ファイルを登録する（ステップ S 3 8 8）。

【 0 2 7 1 】

他方、使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一グループに入れるが選択されなかつ

た場合には（ステップ S 3 8 7）、記録ファイルのモード（静止画、動画、音声、二値画）別に整理し（ステップ S 3 8 9）、撮影リストのフォルダの下層にモード（静止画、動画、音声、二値画）別のフォルダを作成して、フォルダ別に対応する記録ファイルを登録し（ステップ S 3 9 0）、グループ保存が終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 3 9 1）。

【 0 2 7 2 】

他方、ステップ S 3 8 3 で、撮影リストにグループ化の指示がない場合には、ステップ S 3 9 2 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 9 3）

【 0 2 7 3 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 7 4 】

以上説明したように、動作例 2 0 によれば、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影リストに従って記録した、静止画、動画、音声、二値化画像等を、静止画、動画、音声、二値化画像別にグループ化して保存することとしたので、ファイル管理が容易となる。

【 0 2 7 5 】

〔動作例 2 1〕

動作例 2 1 を図 3 4 を参照して説明する。図 3 4 は、動作例 2 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 1 では、撮影リストの記録後の指示が複数枚の画像の組み合わせである場合には、所定枚数の撮影後、撮影リストの各カットの組み合わせ情報に応じて複数枚の画像を組み合わせ、1 つの画像ファイルを作成する場合の動作を説明する。

【 0 2 7 6 】

図 3 4 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2

00から転送されてくる撮影リストを記録部108に格納しているものとする。そして、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部108に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部104に表示する（ステップS401）。そして、システム制御部101は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップS402）、記録後の指示が複数画像の組み合わせであるか否かを判断する（ステップS403）。この判断の結果、記録後の指示が複数画像の組み合わせである場合には、ステップS404に移行する。

【0277】

ステップS404では、カット名が選択されて撮影が行われる。システム制御部101は、所定枚数の撮影が終了したか否かを判断する（ステップS405）。所定枚数の撮影が終了していない場合には、ステップS404に戻る一方、所定枚数の撮影が終了した場合には、システム制御部101は、撮影リストから各カットの組み合わせ情報を読み込み（ステップS406）、各カットの組み合わせ情報に従って、撮影した複数枚の画像を合成し（ステップS407）、合成した画像を1つの画像ファイルとして記録部108に保存する（ステップS408）。

【0278】

他方、ステップS403で、記録後の指示が複数画像の組み合わせでない場合には、ステップS409に移行し、通常の撮影リストモードで撮影した画像を画像ファイルとして記録部108に格納する（ステップS410）。

【0279】

なお、デジタルカメラ100では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ200に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ200の利用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0280】

以上説明したように、上記動作例21によれば、撮影リストの記録後の指示が

、複数枚の画像の組み合わせである場合には、複数枚の画像を組み合わせで1つの画像ファイルを作成することとしたので、撮影後に、自動的に複数枚の画像を合成することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【0281】

[動作例22]

動作例22を図35を参照して説明する。図35は動作例22におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例22では、撮影リストの記録後の指示が複数画像の補正処理である場合には、撮影後、複数画像に対して補正処理を行う場合の動作を説明する。

【0282】

図35において、まず、デジタルカメラ100は、パーソナルコンピュータ200から転送されてくる撮影リストを記録部108に格納しているものとする。そして、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部108に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部104に表示する(ステップS421)。そして、システム制御部101は、撮影リストの記録後の指示を読み出し(ステップS422)、記録後の指示が複数画像の補正処理の指示であるか否かを判断する(ステップS423)。この判断の結果、記録後の指示が複数画像の補正指示である場合には、ステップS424に移行する。

【0283】

ステップS424では、カット名が選択されて、撮影が行われる。つづいて、システム制御部101は、撮影リストの記録後の指示が、撮影中の補正指示である場合には(ステップS425)、撮影パラメータを補正(例えば、露出の調整)する(ステップS426)。そして、システム制御部101は、所定枚数の撮影が終了したか否かを判断し(ステップS427)、所定枚数の撮影が終了していない場合には、ステップS424に戻る一方、所定枚数の撮影が終了した場合には、撮影した複数の画像に対して、撮影終了後の補正処理(色補正、レンズの歪み補正等)を行う(ステップS428)。そして、補正処理された画像を記録部108に格納する(ステップS429)。

【 0 2 8 4 】

他方、ステップ S 4 2 3 で、撮影リストの記録後の指示が複数画像の補正処理でない場合には、ステップ S 4 3 0 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影し、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 3 1）。

【 0 2 8 5 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 8 6 】

以上説明したように、上記動作例 2 2 によれば、撮影リストの記録後の指示が複数画像の補正処理である場合には、撮影後、複数画像に対して補正処理を自動的に行うことができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 8 7 】

〔動作例 2 3〕

動作例 2 3 を図 3 6 を参照して説明する。図 3 6 は動作例 2 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 3 では、撮影リストの選択されるカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を行う場合の動作を説明する。

【 0 2 8 8 】

図 3 6 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 5 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて撮影条件指示が登録されている。

【 0 2 8 9 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 4 5 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I

ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 4 5 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 4 5 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 4 5 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 4 5 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 4 5 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 9 0 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リスト内に選択されたカット名に対応する撮影条件指示があるか否かを判別して（ステップ S 4 5 8）、撮影条件指示がある場合には、撮影条件を当該撮影条件指示に従って設定する（ステップ S 4 5 9）。そして、設定した撮影条件で撮影を実行する（ステップ S 4 6 0）。つづいて、撮影した画像を記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 6 1）。他方、ステップ S 4 5 8 で撮影リスト内に選択されたカット名に対応する撮影条件指示がない場合には、ステップ S 4 6 2 に移行して、通常の撮影リストモードの撮影を行い、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 6 3）。

【 0 2 9 1 】

なお、撮影リストに含まれる撮影条件指示としては、記録モードの指示（音声、動画等）、日付、撮影時間、カメラの姿勢（方角、回転角度）、連写、絞り、シャッター速度、フラッシュ ON / OFF、赤目防止 ON / OFF、白黒モード、セピアモード、文字原稿撮影モード（エッジを強調した文字をはっきりと、際立たせるモード）、画素数、圧縮率、オートフォーカス、マニュアルフォーカス、距離固定、手ぶれ補正 ON / OFF、ホワイトバランス設定、画像スタンプ合

成、カット枚数、縦横サイズ、アスペクト比、露出モード、解像度、暗号化の有無、電子すかしの有無等がある。

【0292】

なお、デジタルカメラ100では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ200に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ200の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0293】

以上説明したように、上記動作例23によれば、撮影リストを表示部104に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、選択したカット名に対応した撮影条件指示に従って撮影を行うこととしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、設定される撮影条件指示で自動的に撮影を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影を行うことが可能となる。

【0294】

本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、発明の要旨を変更しない範囲で適宜変形して実行可能である。例えば、本実施の形態においては、本発明にかかる画像入力装置をデジタルカメラに適用した例を説明したが、本発明はこれに限られるものではなく、PDA等の情報携帯入力装置等にも適用可能である。

【0295】

【発明の効果】

以上説明したように、請求項1にかかる画像入力装置によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は少なくとも、記録すべき被記録対象の1または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示することとしたので、撮影リストのカット名を確認しながら撮影を行うことができ、必要なカットの取り忘れを防止するこ

とが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 9 6 】

また、請求項 2 にかかる画像入力装置によれば、請求項 1 にかかる発明において、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、カット名を選択した後に撮影可能状態とすることができ、カット名と対応させた撮影が容易となる。

【 0 2 9 7 】

また、請求項 3 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 にかかる発明において、記録モードでは、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データを記録することとしたので、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明の効果に加えて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声等を記録することが可能となる。

【 0 2 9 8 】

また、請求項 4 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内に前記選択手段で選択されたカット名を付加することとしたので、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像等とカット名とを対応させることができ、どの画像等がどのカット名に対応するかを間違えることを防止することが可能となる。

【 0 2 9 9 】

また、請求項 5 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 または 3 にかかる発明において、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶することとしたので、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像等とカット名とを対応させることができ、どの画像等がどのカット名に対応するかを間違えることを防止することが可能となる。

【 0 3 0 0 】

また、請求項 6 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 または請求項 3 にか

かる発明において、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、記録モードで記録した記録データの記録ファイルのファイル名を、少なくとも一部に選択手段で選択されたカット名を含むようにしたので、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像等とカット名とを対応させることができ、どの画像等がどのカット名に対応するかを間違えることを防止することが可能となる。

【 0 3 0 1 】

また、請求項 7 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明において、記録モードで記録した画像データに選択手段で選択されたカット名を合成することとしたので、請求項 2 または請求項 3 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像等とカット名とを対応させることができ、どの画像等がどのカット名に対応するかを間違えることを防止することが可能となる。

【 0 3 0 2 】

また、請求項 8 にかかる画像入力装置によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影指示情報とを含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、撮影リストの対応する撮影指示情報の内容を報知することとしたので、カット名に対応する撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 3 0 3 】

また、請求項 9 にかかる画像入力装置によれば、請求項 8 にかかる発明において、撮影指示情報の内容は撮影の手順であることとしたので、請求項 8 にかかる発明の効果に加えて、カット名に対応する撮影の手順で撮影を行うことが可能となる。

【 0 3 0 4 】

また、請求項 1 0 にかかる画像入力装置によれば、請求項 8 にかかる発明において、撮影指示情報の内容は撮影と同時もしくは撮影後の作業の指示であることとしたので、請求項 8 にかかる発明の効果に加えて、カット名に対応する、撮影と同時もしくは撮影後の作業の指示に従って撮影等を行うことが可能となる。

【 0 3 0 5 】

また、請求項 1 1 にかかる画像入力装置によれば、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影指示情報はテキスト文書からなり、撮影指示情報の内容は、表示手段に表示されることとしたので、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、テキスト文書で指示を受けることが可能となる。

【 0 3 0 6 】

また、請求項 1 2 にかかる画像入力装置によれば、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影指示情報は図面からなり、当該撮影指示情報の内容は、表示手段に表示されることとしたので、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、図面で指示を受けることが可能となる。

【 0 3 0 7 】

また、請求項 1 3 にかかる画像入力装置によれば、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影指示情報は音声からなり、当該撮影指示情報の内容は、音声出力手段で再生されることとしたので、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、音声で指示を受けることが可能となる。

【 0 3 0 8 】

また、請求項 1 4 にかかる画像入力装置によれば、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明において、撮影指示情報は動画からなり、当該撮影指示情報の内容は表示手段に再生されることとしたので、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、動画で指示を受けることが可能となる。

【 0 3 0 9 】

また、請求項 1 5 にかかる画像入力装置によれば、光学系は被写体像を結像し

、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する記録後の指示を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、該記録モードで記録した記録データを、撮影リストの選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理することとしたので、使用者は、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影後の処理を自動化することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 1 0 】

また、請求項 1 6 にかかる画像入力装置によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、記録モードで記録した記録データをメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項 1 5 にかかる発明の効果に加えて、記録した記録データを自動的にメール添付送信することが可能となる。

【 0 3 1 1 】

また、請求項 1 7 にかかる画像入力装置によれば、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付送信の場合には、記録モードで記録した画像データに対応するサムネール画像をメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項 1 5 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像データのサムネール画像を自動的にメール添付転送することが可能となる。

【 0 3 1 2 】

また、請求項 1 8 にかかる画像入力装置によれば、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が画像データの変倍メール添付送信の場合には、記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項 1 5 に

かかる発明の効果に加えて、撮影した画像データを所望の大きさに変倍してメール添付送信することが可能となる。

【 0 3 1 3 】

また、請求項 1 9 にかかる画像入力装置によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードの場合には、記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、通信手段を介して指定されるホームページにアップロードすることとしたので、請求項 1 5 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像データを自動的にホームページにアップロードすることが可能となる。

【 0 3 1 4 】

また、請求項 2 0 にかかる画像入力装置によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードおよび当該ホームページの URL アドレスの通知の場合には、記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換し、通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするとともに、アップロード先のホームページの URL アドレスを通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項 1 5 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像データを自動的にホームページにアップロードできるとともに、アップロード先のホームページの URL アドレスを指定される送信先に自動的に送信することが可能となる。

【 0 3 1 5 】

また、請求項 2 1 にかかる画像入力装置によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、メモ情報入力手段はメモ情報を入力し、選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納することとしたので、請求項 1 5 にかかる発明の効果に加えて、撮影に係するメモを関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 3 1 6 】

また、請求項 2 2 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 1 にかかる発明において、記録データは、静止画像データ、二値画像データ、動画画像データ、および音声データのいずれかであることとしたので、請求項 2 1 にかかる発明の効果に加えて、静止画像データ、二値画像データ、動画画像データ、および音声データのファイルとメモ情報のファイルとを関連づけて格納することが可能となる。

【 0 3 1 7 】

また、請求項 2 3 にかかる画像入力装置によれば、請求項 1 5 にかかる発明において、メモ入力手段はメモ情報を入力し、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、メモ入力手段から入力されるメモ情報を、記録モードで記録した画像データと合成することとしたので、請求項 1 5 にかかる発明の効果に加えて、撮影に係するメモを撮影画像に合成することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 3 1 8 】

また、請求項 2 4 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つにかかる発明において、メモ情報をテキスト文字としたので、請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、メモ情報としてテキスト文字を使用することが可能となる。

【 0 3 1 9 】

また、請求項 2 5 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つにかかる発明において、メモ情報を手書き文字としたので、請求項 2 1 ～請求項 2 3 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、メモ情報として手書き文字を使用することが可能となる。

【 0 3 2 0 】

また、請求項 2 6 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 3 にかかる発明において、音声入力手段は音声を入力し、選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後の音声入力である場合には、記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、音声入力手段から入力される音声のファイルを記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納することとしたので

、請求項 1 5 にかかる発明の効果に加えて、撮影に係するメモを関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 3 2 1 】

また、請求項 2 7 にかかる画像入力装置によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、記憶手段は少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、記録制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、リリースキーの操作に応じて、被写体の画像の記録を行い、撮影リスト進捗管理手段制御手段は撮影リストの進捗を管理し、通信手段は外部とデータ通信することとしたので、撮影リストの作業状態を把握することが可能となる。

【 0 3 2 2 】

また、請求項 2 8 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 7 にかかる発明において、請求項 2 7 にかかる発明において、撮影リスト進捗管理手段は、撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を通信手段を介して、指定される送信先に送信することとしたので、請求項 2 7 にかかる発明の効果に加えて、撮影リストの作業を終了したか否かを指示者が把握することが可能となる。

【 0 3 2 3 】

また、請求項 2 9 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 7 にかかる発明において、撮影リスト進捗管理手段は、撮影リストのカット名の撮影が所定のポイントまで終了した場合にその旨を、通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項 2 7 にかかる発明の効果に加えて、撮影リストの作業が所定のポイントまで終了したか否かを指示者が把握することが可能となる。

【 0 3 2 4 】

また、請求項 3 0 にかかる画像入力装置によれば、請求項 2 7 ～請求項 2 9 の

いずれか 1 つにかかる発明において、撮影リスト進捗管理手段は、撮影リストに含まれる自動報告指示に応じて、撮影リストの進捗を管理することとしたので、請求項 2 7 ～ 請求項 2 9 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、撮影リストで当該撮影リストの進捗状態の管理の指示を行うことが可能となる。

【 0 3 2 5 】

また、請求項 3 1 にかかる画像入力装置によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、記録制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして記録し、グループ化手段は撮影リスト毎に、記録ファイルをグループ化することとしたので、撮影リスト毎に、撮影した記録ファイルをグループ化することができ、撮影リスト毎のファイル管理が容易となる。

【 0 3 2 6 】

また、請求項 3 2 にかかる画像入力装置によれば、請求項 3 1 にかかる発明において、グループ化手段は、さらに、カット名毎に記録ファイルをグループ化することとしたので、請求項 3 1 にかかる発明の効果に加えて、カット名毎のファイル管理が容易となる。

【 0 3 2 7 】

また、請求項 3 3 にかかる画像入力装置によれば、請求項 3 1 にかかる発明において、グループ化手段は、さらに、記録ファイルの種類別に記録ファイルをグループ化することとしたので、請求項 3 1 にかかる発明の効果に加えて、記録ファイルの種類毎のファイル管理が容易となる。

【 0 3 2 8 】

また、請求項 3 4 にかかる画像入力装置によれば、請求項 3 1 ～ 請求項 3 3 のいずれか 1 つにかかる発明において、グループ化手段は、撮影リスト内にグルー

プ化の指示がある場合に、記録ファイルのグループ化を行うこととしたので、請求項 3 1～請求項 3 3 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、撮影リストでグループ化の指示を行うことが可能となる。

【 0 3 2 9 】

また、請求項 3 5 にかかる画像入力装置によれば、請求項 3 1～請求項 3 4 のいずれか 1 つにかかる発明において、グループ化手段は、記録ファイルを同一のフォルダに登録してグループ化することとしたので、請求項 3 1～請求項 3 4 のいずれか 1 つにかかる発明の効果に加えて、フォルダでファイル管理することが可能となる。

【 0 3 3 0 】

また、請求項 3 6 にかかる画像入力装置によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は少なくとも記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、撮影制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行い、撮影リスト内に複数画像の合成の指示がある場合には、撮影した複数の画像を合成することとしたので、撮影後に、自動的に複数枚の画像を合成することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 3 1 】

また、請求項 3 7 にかかる画像入力装置によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、撮影制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行い、撮影リスト内に複数画像の補正指示がある場合に、当該補正指示に従って

撮影した複数の画像を補正することとしたので、撮影後に、自動的に複数枚の画像を補正することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 3 2 】

また、請求項 3 8 にかかる画像入力装置によれば、請求項 3 7 にかかる発明において、複数画像の補正指示は、色補正指示であることとしたので、請求項 3 7 にかかる発明の効果に加えて、自動的に色補正を行うことが可能となる。

【 0 3 3 3 】

また、請求項 3 9 にかかる画像入力装置によれば、請求項 3 7 にかかる発明において、請求項 3 7 にかかる発明において、複数画像の補正指示は、レンズの歪み補正指示であることとしたので、請求項 3 7 にかかる発明の効果に加えて、自動的にレンズ補正を行うことが可能となる。

【 0 3 3 4 】

また、請求項 4 0 にかかる画像入力装置によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、入力手段は、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影条件指示および／または撮影後の処理条件指示を含む撮影リストを入力し、記憶手段は入力手段で入力された撮影リストを記憶し、表示手段は撮影リストに含まれるカット名を表示し、選択手段は表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、撮影制御手段は選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行い、記録モードでは、選択手段で選択されたカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を実行し、かつ／または、記録モードで撮影した画像を選択手段で選択されたカット名に対応する撮影後の処理条件指示に従って処理することとしたので、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、設定される撮影条件指示で自動的に撮影を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影を行うことが可能となる。

【 0 3 3 5 】

また、請求項 4 1 にかかる画像入力装置によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、日付を撮影した画像に合成する指示が含まれること

としたので、請求項 4 0 にかかる発明の効果に加えて、自動的に日付を撮影した画像に合成することが可能となる。

【 0 3 3 6 】

また、請求項 4 2 にかかる画像入力装置によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、画像スタンプを撮影した画像に合成する指示が含まれることとしたので、請求項 4 0 にかかる発明の効果に加えて、自動的に画像スタンプを撮影した画像に合成することが可能となる。

【 0 3 3 7 】

また、請求項 4 3 にかかる画像入力装置によれば、撮影条件指示には、撮影する場合の解像度の指示が含まれることとしたので、請求項 4 0 にかかる発明の効果に加えて、自動的に解像度を設定することが可能となる。

【 0 3 3 8 】

また、請求項 4 4 にかかる画像入力装置によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には、カット枚数の指示が含まれることとしたので、請求項 4 0 にかかる発明の効果に加えて、自動的にカット枚数を選択することが可能となる。

【 0 3 3 9 】

また、請求項 4 5 にかかる画像入力装置によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示には露出条件の指示が含まれることとしたので、請求項 4 0 にかかる発明の効果に加えて、自動的に露出条件を設定することが可能となる。

【 0 3 4 0 】

また、請求項 4 6 にかかる画像入力装置によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示にはシャッタースピードの指示が含まれることとしたので、請求項 4 0 にかかる発明の効果に加えて、自動的にシャッタースピードを設定することが可能となる。

【 0 3 4 1 】

また、請求項 4 7 にかかる画像入力装置によれば、請求項 4 0 にかかる発明において、請求項 4 0 にかかる発明において、撮影条件指示にはストロボの ON /

ＯＦＦの指示が含まれることとしたので、請求項４０にかかる発明の効果に加えて、自動的にストロボのＯＮ／ＯＦＦを設定することが可能となる。

【０３４２】

また、請求項４８にかかる画像入力装置によれば、上記発明によれば、請求項４０にかかる発明において、撮影条件指示には撮影する画像の縦横サイズの指示が含まれることとしたので、請求項４０にかかる発明の効果に加えて、自動的に画像の縦横のサイズを設定することが可能となる。

【０３４３】

また、請求項４９にかかる画像入力装置によれば、請求項４０にかかる発明において、請求項４０にかかる発明において、撮影条件指示には撮影する画像のアスペクト比の指示が含まれることとしたので、請求項４０にかかる発明の効果に加えて、自動的に画像のアスペクト比を設定することが可能となる。

【０３４４】

また、請求項５０にかかる画像入力装置によれば、請求項４０にかかる発明において、請求項４０にかかる発明において、撮影条件指示には文字撮影モードでの撮影の指示が含まれることとしたので、請求項４０にかかる発明の効果に加えて、自動的に文字撮影モードを設定することが可能となる。

【０３４５】

また、請求項５１にかかる画像入力装置によれば、請求項４０にかかる発明において、撮影条件指示には、動画撮影モードでの撮影の指示が含まれることとしたので、請求項４０にかかる発明の効果に加えて、自動的に動画撮影モードを設定することが可能となる。

【０３４６】

また、請求項５２にかかる画像入力装置によれば、請求項４０にかかる発明において、請求項４０にかかる発明において、撮影条件指示には音声を同時に記録する指示が含まれることとしたので、請求項４０にかかる発明の効果に加えて、自動的に音声を同時に記録することが可能となる。

【０３４７】

また、請求項５３にかかる画像入力装置によれば、請求項１～請求項５２にか

かる発明において、撮影リストは外部から転送されてきて、入力手段を介して入力されることとしたので、請求項 1 ～請求項 5 2 にかかる発明の効果に加えて、外部から撮影リストを入力することが可能となる。

【 0 3 4 8 】

また、請求項 5 4 にかかるデジタルカメラによれば、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つにかかる画像入力装置を適用したので、撮影リストのカット名を確認しながら撮影を行うことができ、必要なカットの取り忘れを防止することが可能なデジタルカメラを提供することが可能となる。

【 0 3 4 9 】

また、請求項 5 5 にかかる携帯情報入力装置によれば、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つにかかる画像入力装置を適用したので、撮影リストのカット名を確認しながら撮影を行うことができ、必要なカットの取り忘れを防止することが可能な携帯情報入力装置を提供することが可能となる。

【 0 3 5 0 】

また、請求項 5 6 にかかる情報処理装置によれば、撮影リスト作成手段は少なくとも記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを作成し、通信手段は撮影リスト作成手段で作成された撮影リストを画像入力装置に転送することとしたので、所望の指示を画像入力装置に与えることが可能となる。

【 0 3 5 1 】

また、請求項 5 7 にかかる画像入力システムによれば、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置と、請求項 5 6 に記載の情報処理装置とで構築することとしたので、情報処理装置で作成した撮影リストに従って、画像入力装置で撮影等を行うことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本実施の形態にかかるデジタルカメラシステムの概略構成例を示す図である。

【図 2】

撮影指示ファイルの一例を示す図である。

【図 3】

図 1 のデジタルカメラの構成を示すブロック図である。

【図 4】

図 1 のパーソナルコンピュータの構成を示すブロック図である。

【図 5】

動作例 1 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 6】

撮影リストの一例を示す図である。

【図 7】

デジタルカメラの表示部の表示例を示す図である。

【図 8】

動作例 2 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 9】

図 6 の撮影リスト（未撮影）の撮影後の撮影リストのフォーマットの一例を示す図である。

【図 1 0】

動作例 3 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートを示す図である。

【図 1 1】

動作例 4 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 2】

画像データに選択されたカット名を合成する場合を説明するための説明図である。

【図 1 3】

動作例 5 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 4】

図面の撮影指示情報の一例を示している。

【図 1 5】

動作例 6 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 6】

動作例 7 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 7】

動作例 8 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 8】

操作指示コマンドの一例を示す図である。

【図 1 9】

動作例 9 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 0】

撮影の後処理として画像をメールで送る場合のコマンドの例を示す図である。

【図 2 1】

動作例 1 0 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 2】

動作例 1 1 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 3】

動作例 1 2 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 4】

記録後の指示として画像を W e b サーバーにアップロードするコマンドの一例を示す図である。

【図 2 5】

動作例 1 3 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 6】

動作例 1 4 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 7】

動作例 1 5 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 8】

動作例 1 6 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 9】

動作例 1 7 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 0】

動作例 1 8 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 1】

動作例 1 9 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 2】

撮影済み撮影画像のフォルダ構成の一例を示す図である。

【図 3 3】

動作例 2 0 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 4】

動作例 2 1 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 5】

動作例 2 2 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 6】

動作例 2 3 におけるデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

1 0 0	デジタルカメラ
1 0 1	システム制御部
1 0 2	カメラ部
1 0 3	画像データ記録・再生部
1 0 4	表示部
1 0 5	音声データ記録・再生部
1 0 6	操作部
1 0 7	タッチパネル操作部
1 0 8	記録部
1 0 9	PC/I F 部
1 1 0	カードスロット部
1 1 1	電源部
1 1 2	CPU
1 1 3	FLASH_ROM
1 1 4	SD-RAM
1 1 5	I P P
1 1 6	フレームメモリ
2 0 0	パーソナルコンピュータ
2 0 1	入力部
2 0 2	表示部
2 0 3	CPU
2 0 4	通信部

2 0 5 記録媒体ドライブ装置

2 0 6 記録媒体

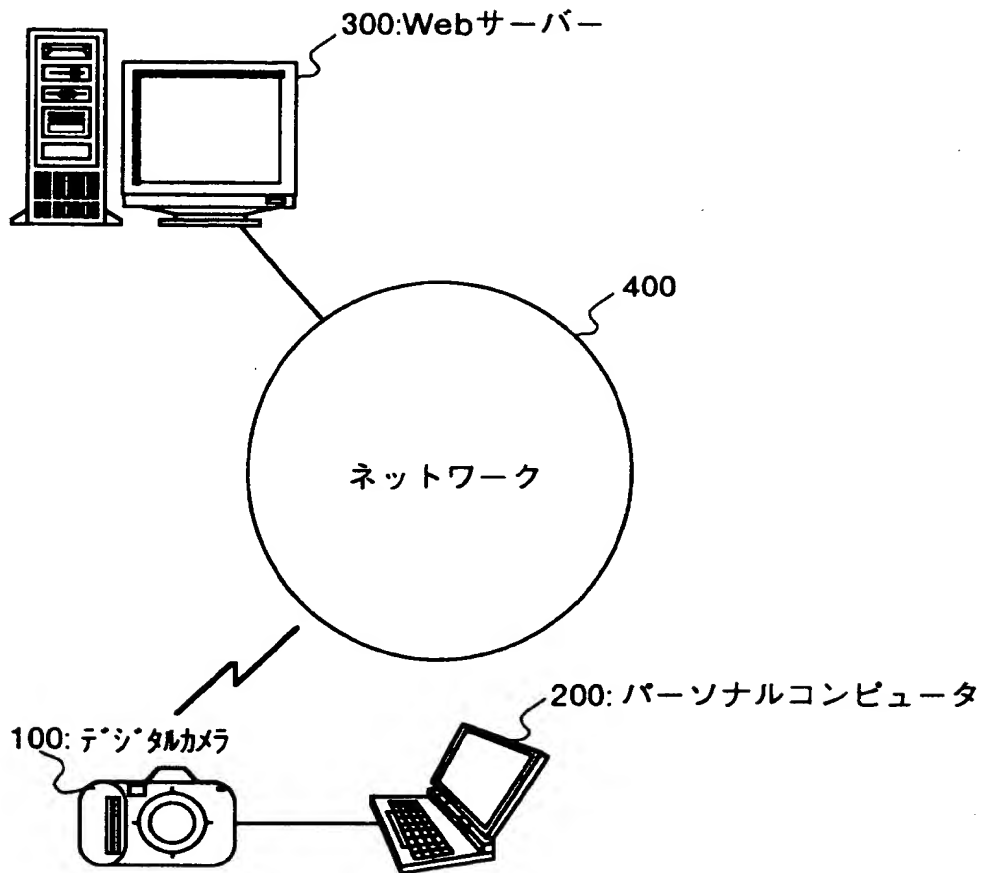
2 0 7 R A M

3 0 0 W e b サーバー

4 0 0 ネットワーク

【書類名】 図面

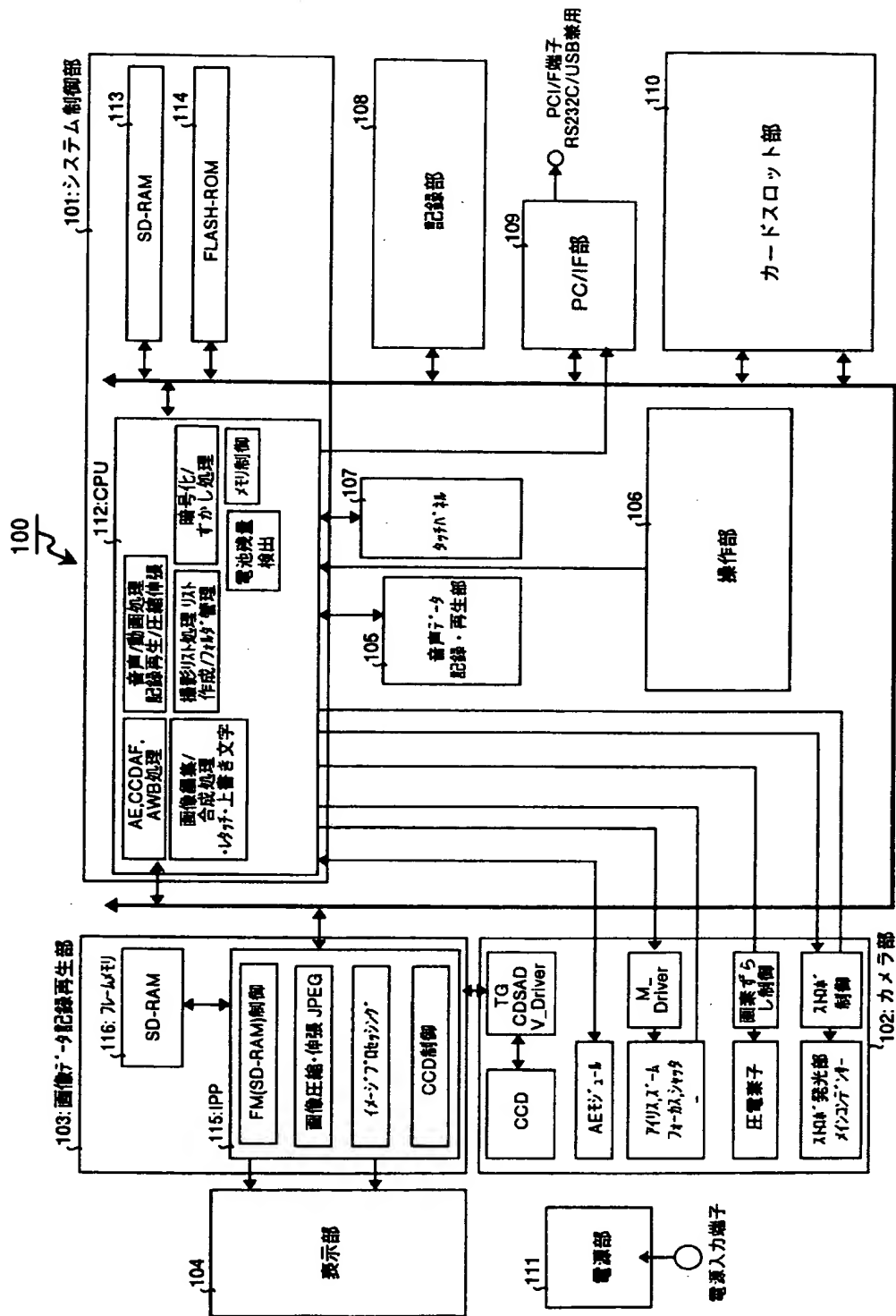
【図 1】



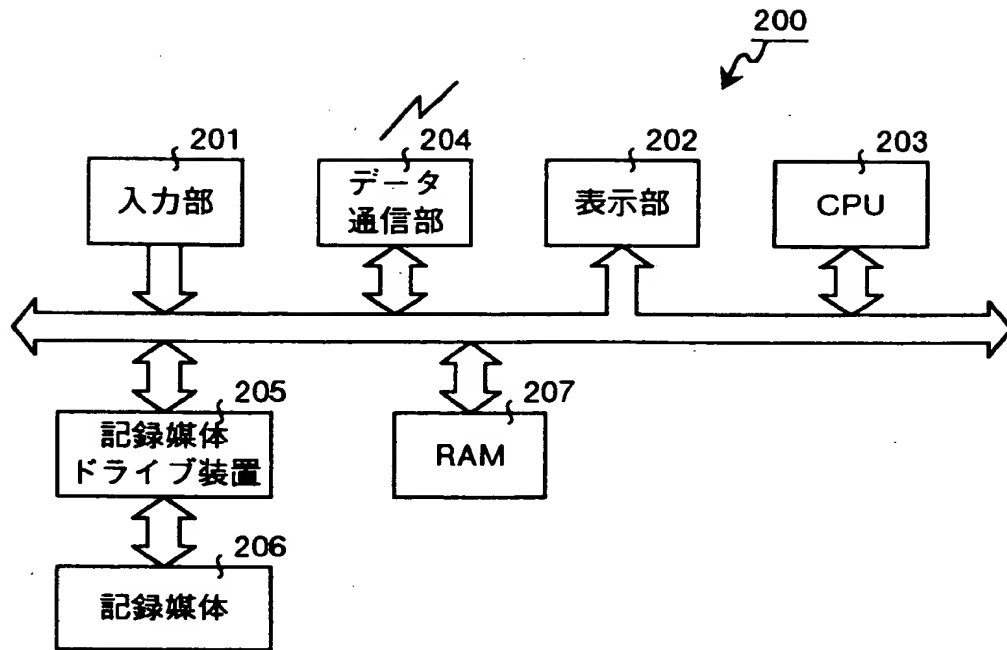
【図 2】

No.	商品名	撮影指示
1	バッグ	
2	バッグ	ブランドの「K」の文字がはっきり見えるように撮影
3	女性用ミニバッグ	軽くて、おしゃれな感じを出す
4	手提げバッグ	携帯電話を入れるポケットがあることがわかるように撮影
5	名刺入れ	2個ならべて、裏と表のデザインがわかるように
6	ペントレー	実際にペンをのせて撮影
7	札入	色違い3色をならべて撮影
8	ペンケース	大きさがわかるようにタバコを並べて撮影

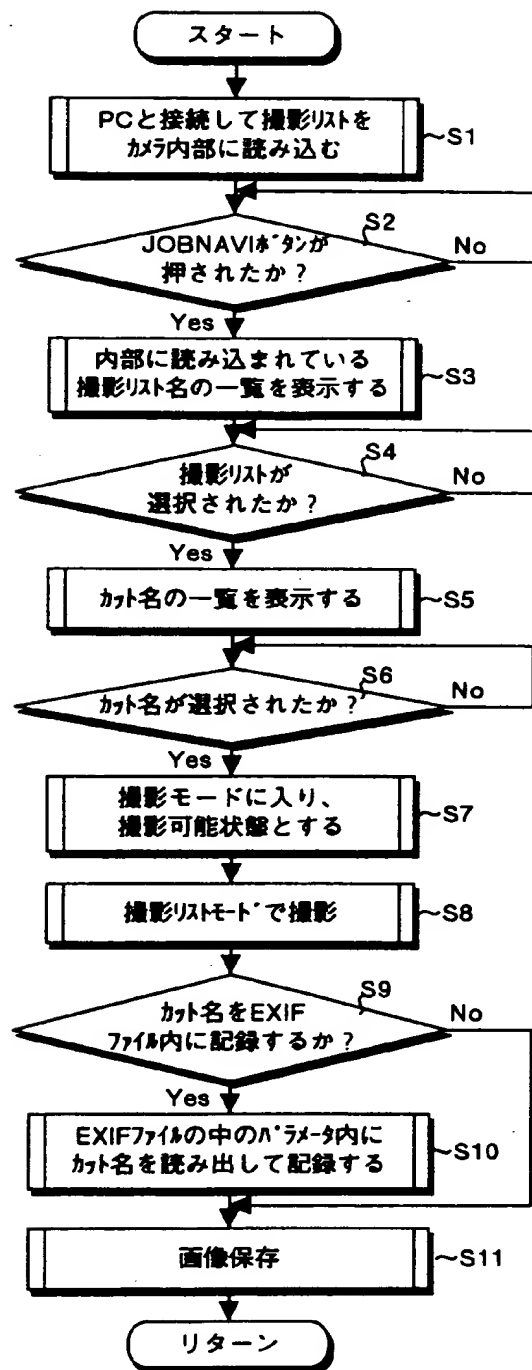
【図 3】



【図 4】



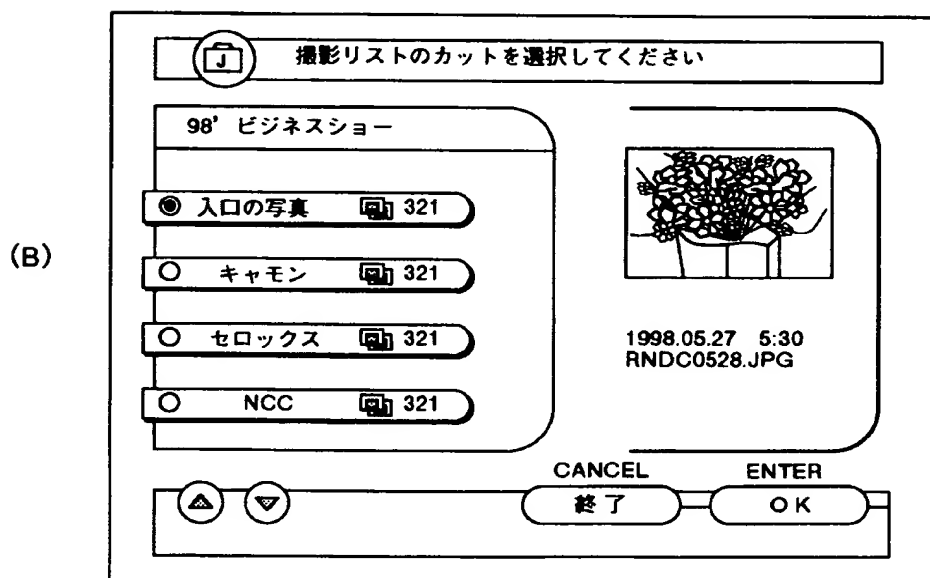
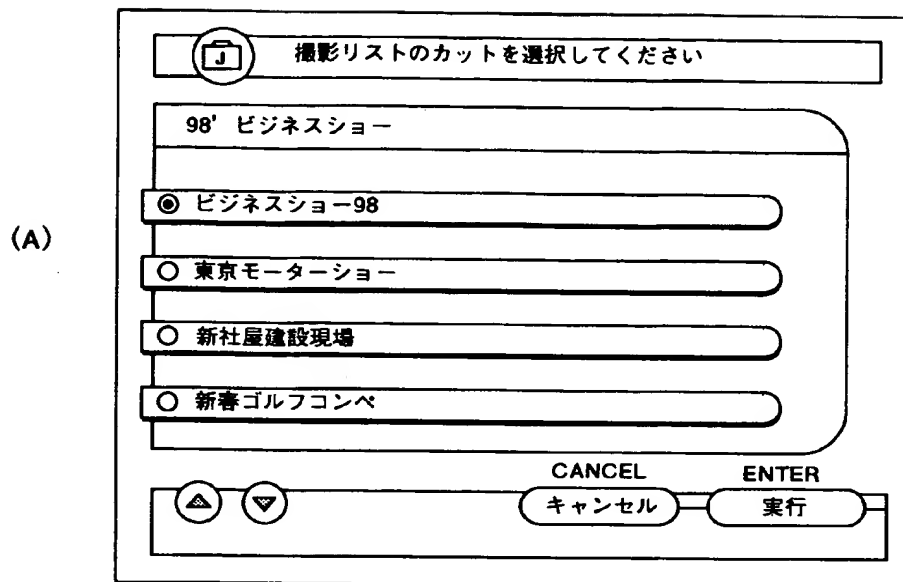
【図 5】



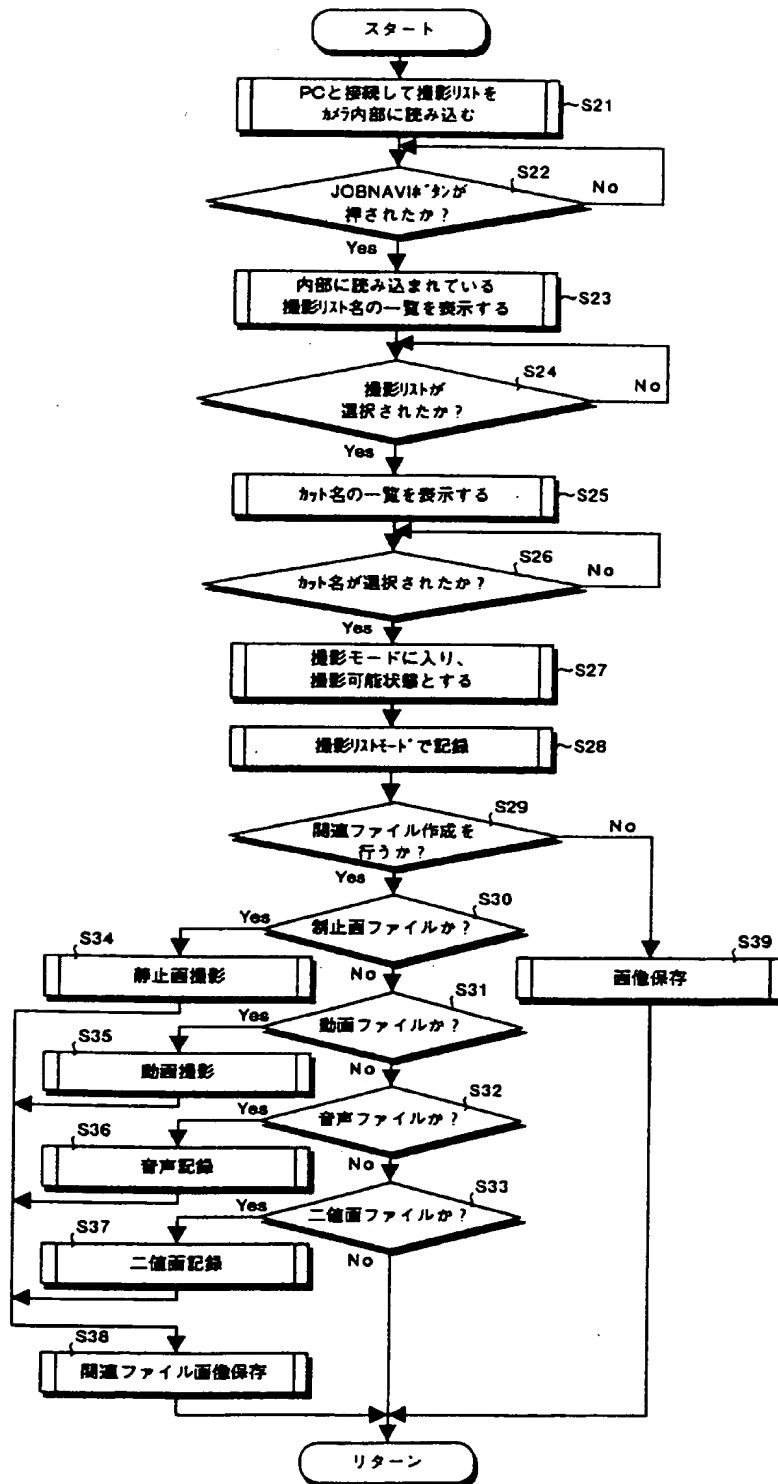
【図 6】

[LIST TITLE]
title=カメラショウ' 99
[リコー]
[キャモン]
[セロックス]
[カミオ]
[ミノロタ]
[ソニー]
[コタック]

【図7】



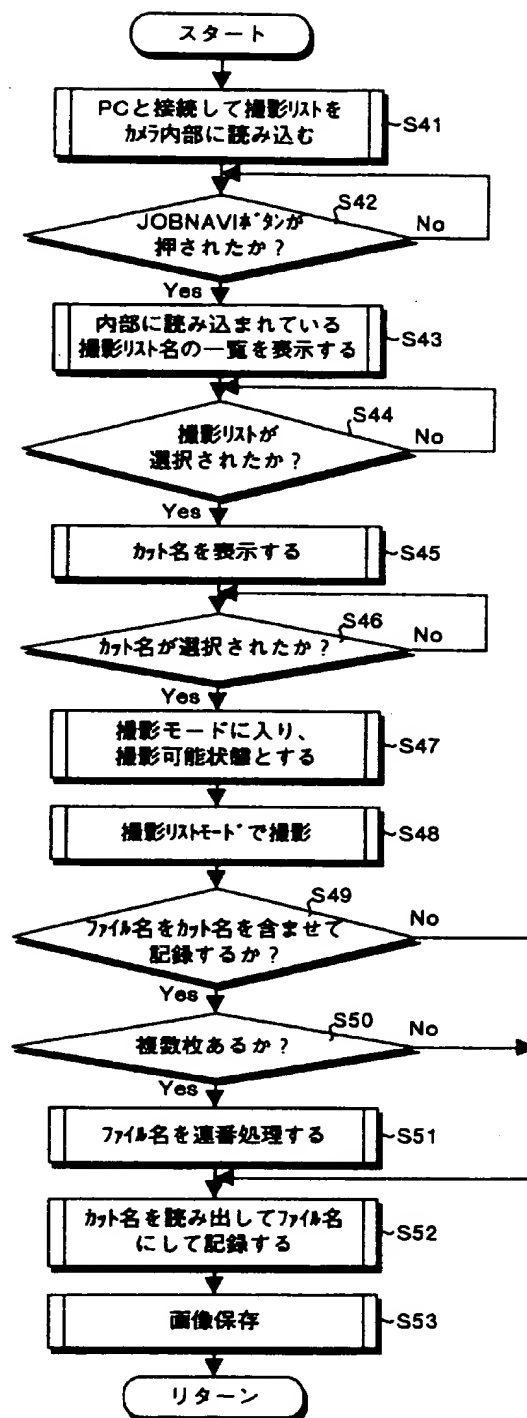
【図 8】



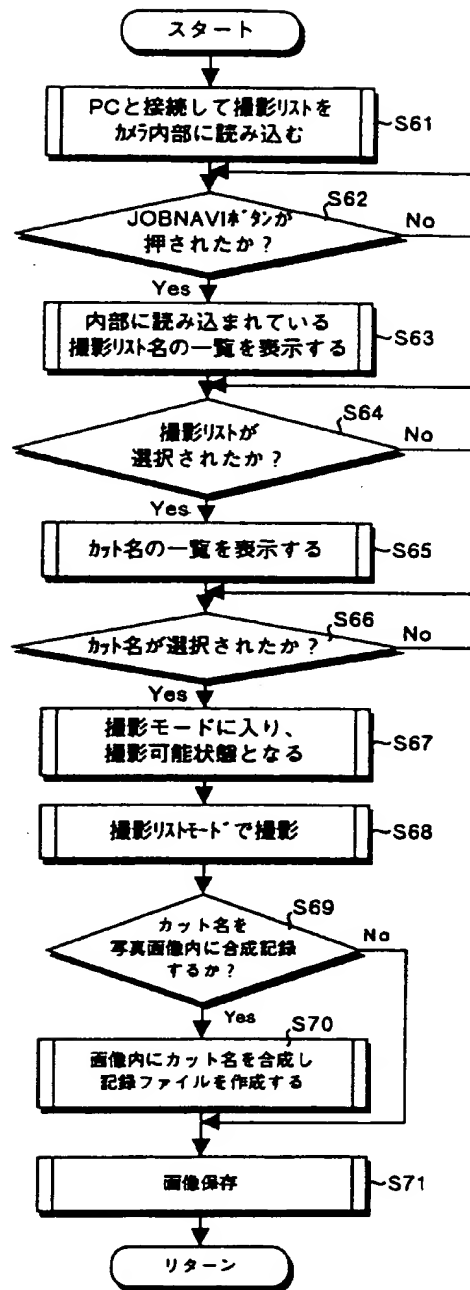
【図 9】

[LIST TITLE]
title=カメラショウ' 99
[リコー]
RIMG0001.JPG
RIMG0005.JPG
[キャモン]
[セロックス]
RIMG0002.JPG
[カミオ]
RIMG0003.JPG
[ミノロタ]
[ソニー]
[コタック]
RIMG0004.JPG

【図10】

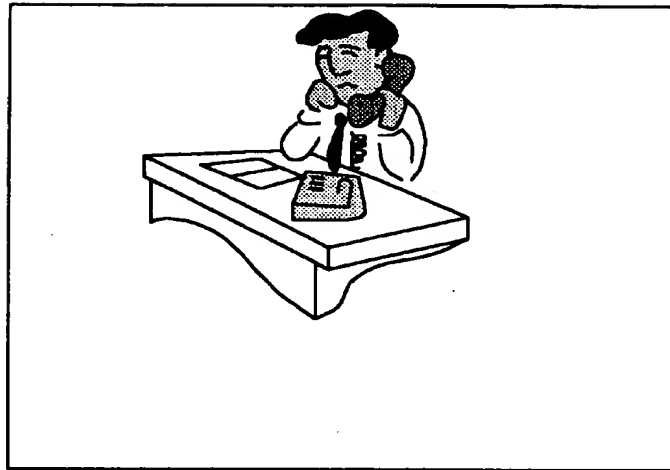


【図11】

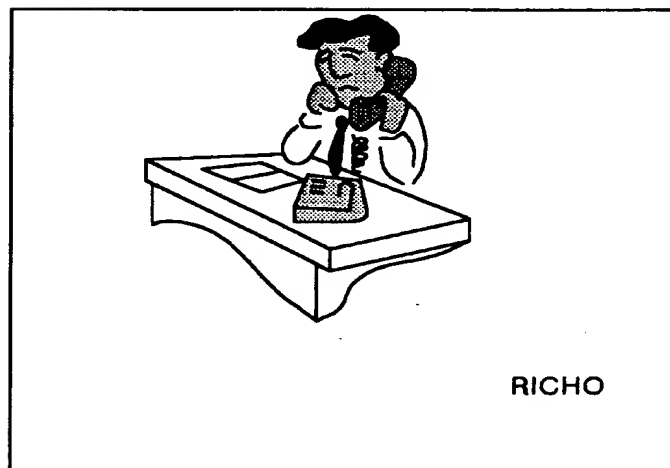


【図 12】

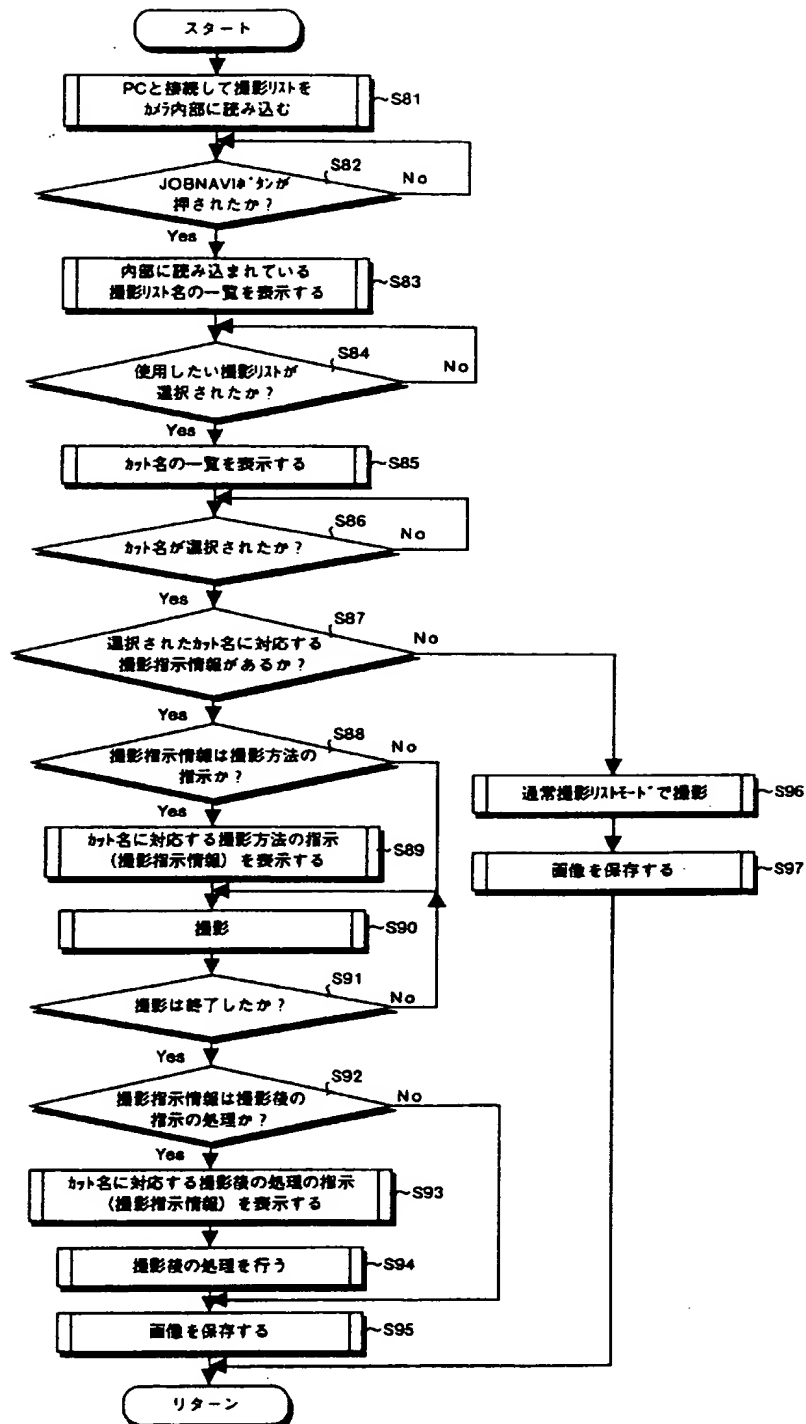
(A)



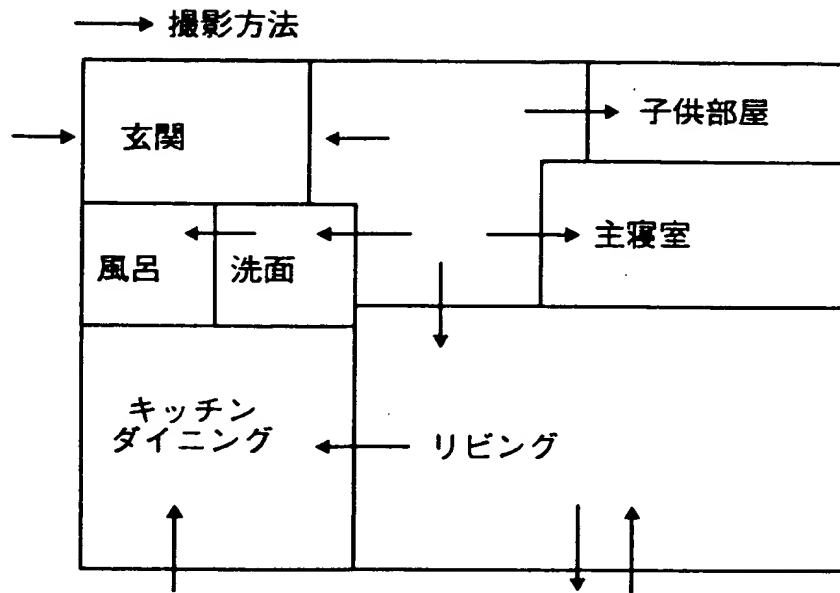
(B)



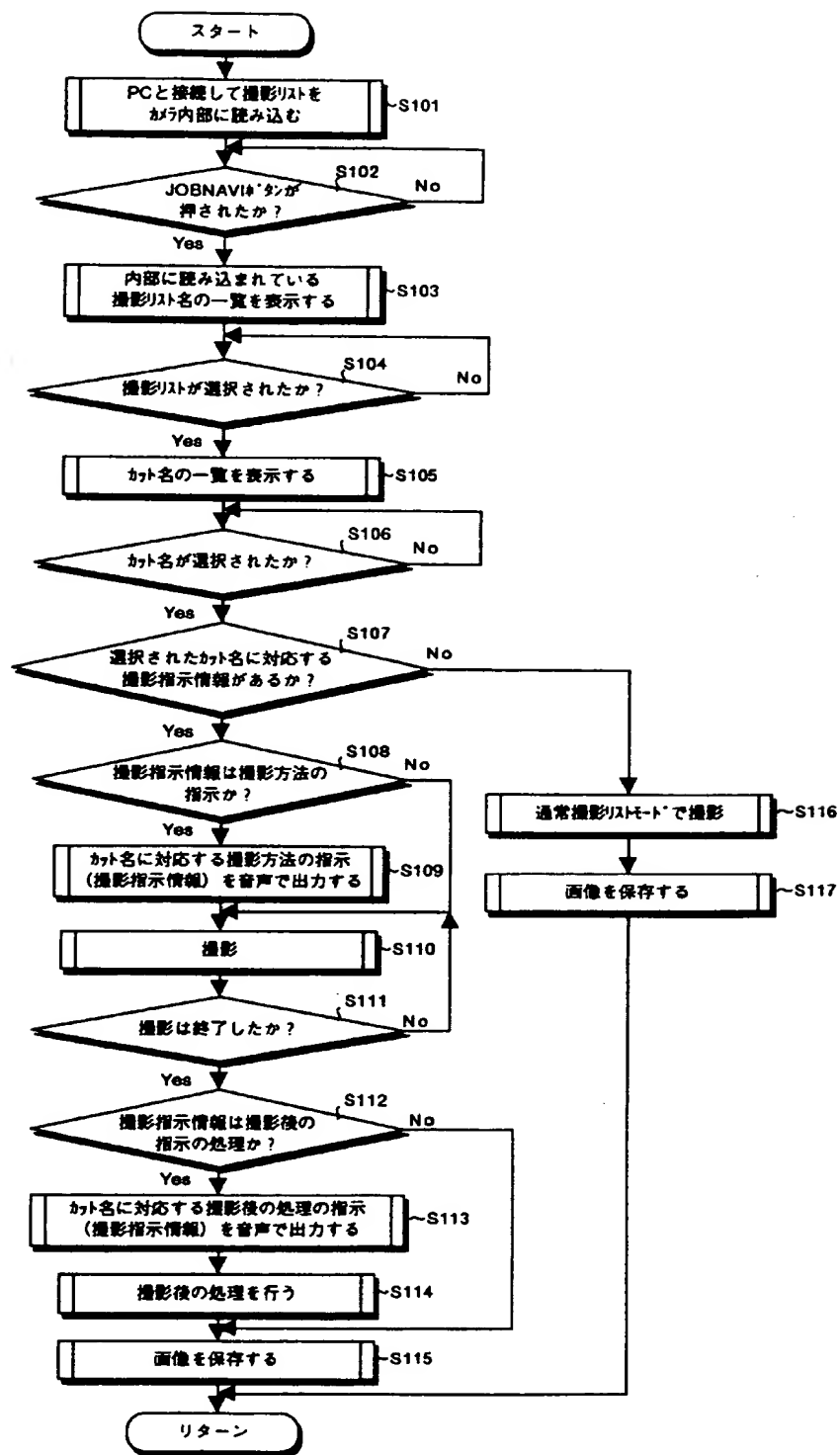
【図13】



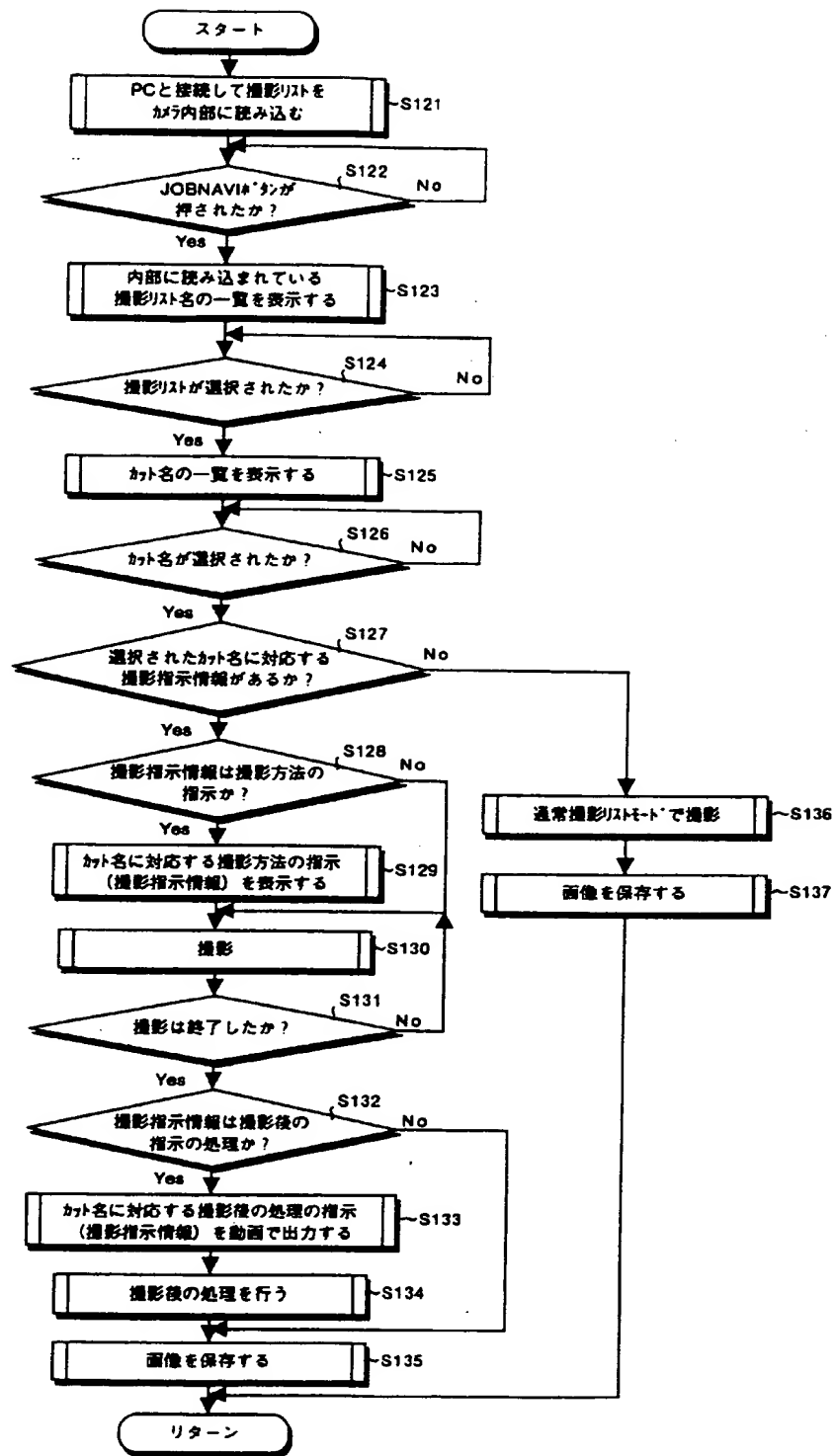
【図 1 4】



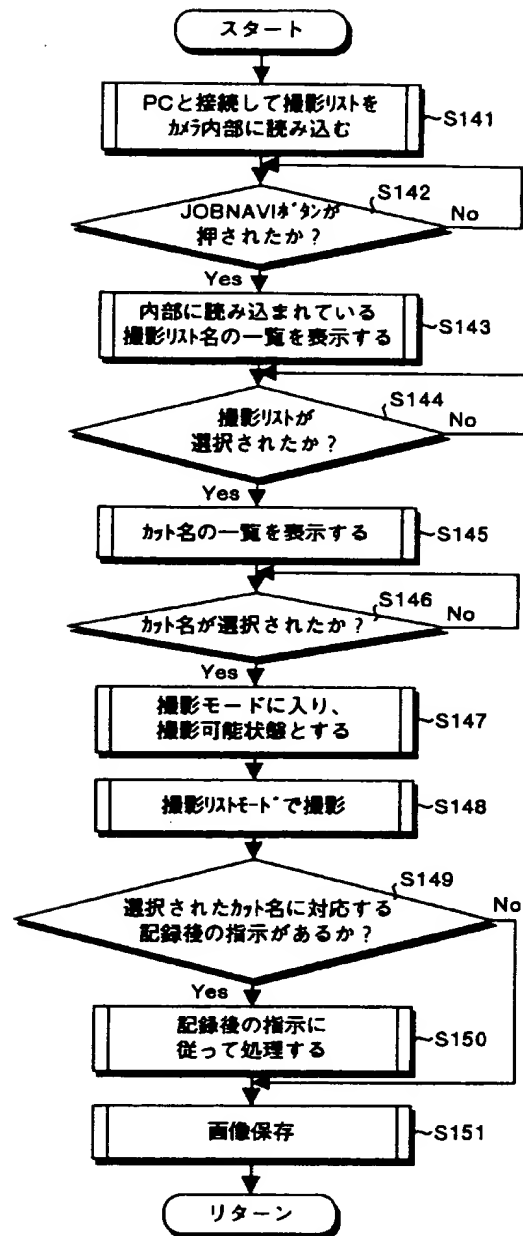
【図15】



【図 16】



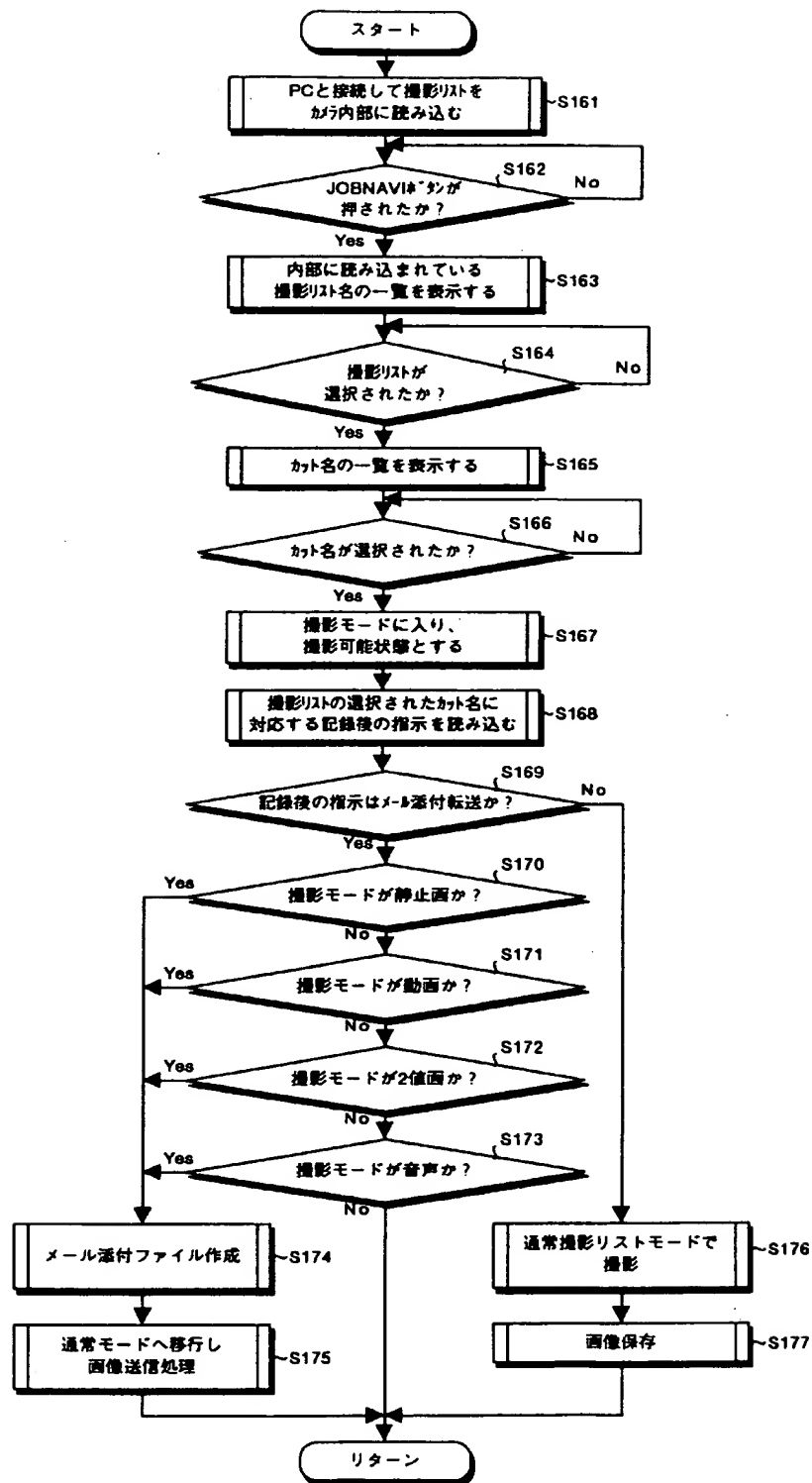
【図 17】



【図 1 8】

Command	No
rename	3
paste	4
mail	6
mail thumbnail	7
mail resize	8
webupload	9
webupload send	10
report jobend	11
report mail jobend	12
report when	13
memo	14
memo mixed	15
memo*.wav	16
archive	17
save	18
stitch	19
adjuste	20
color	21
distortion	22
stamp data	30
stamp	31
pixels	32
pictures	33
exposure	34
speed	35
flash	36
size	37
ratio	38
secure	39
watermark	40
binarydata	41
movie	42
sound	43

【図19】

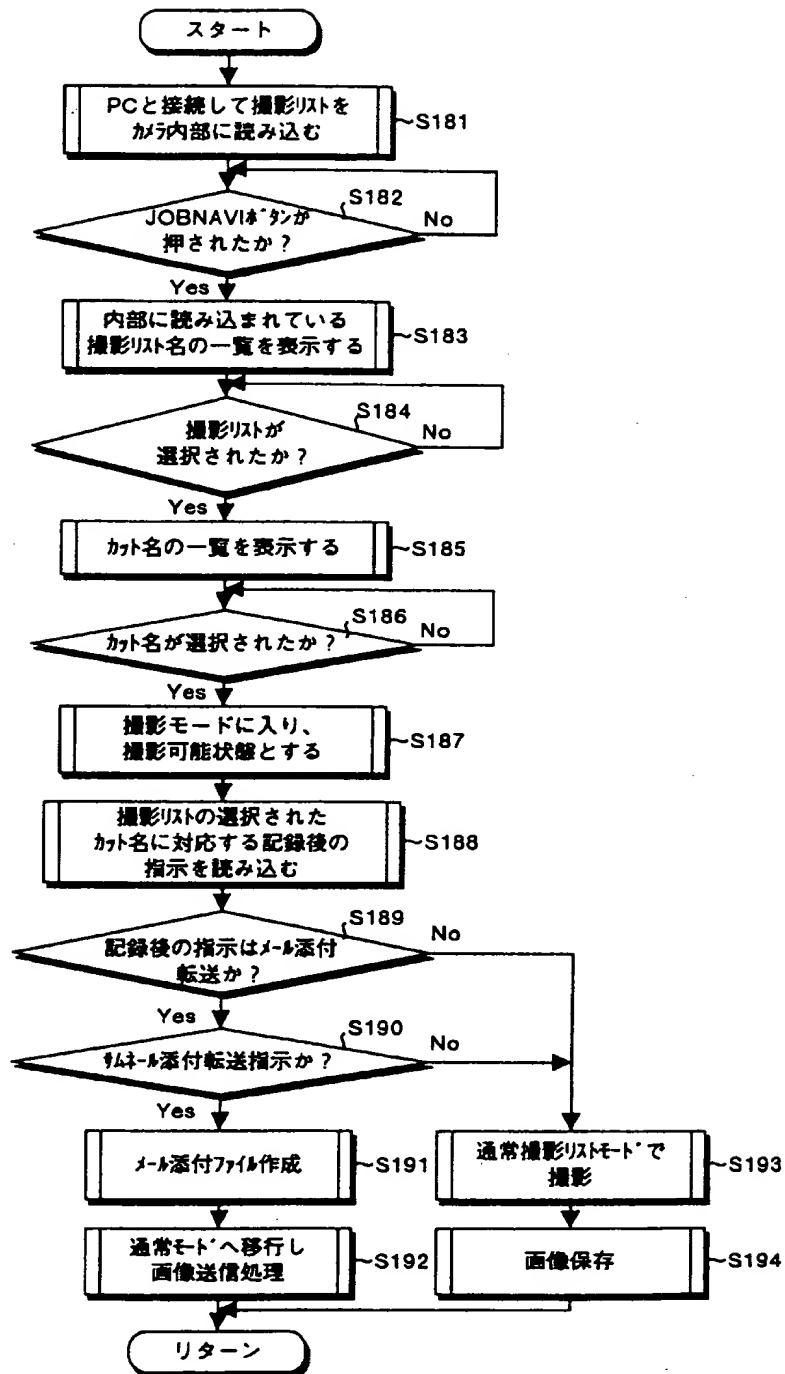


【図 2 0】

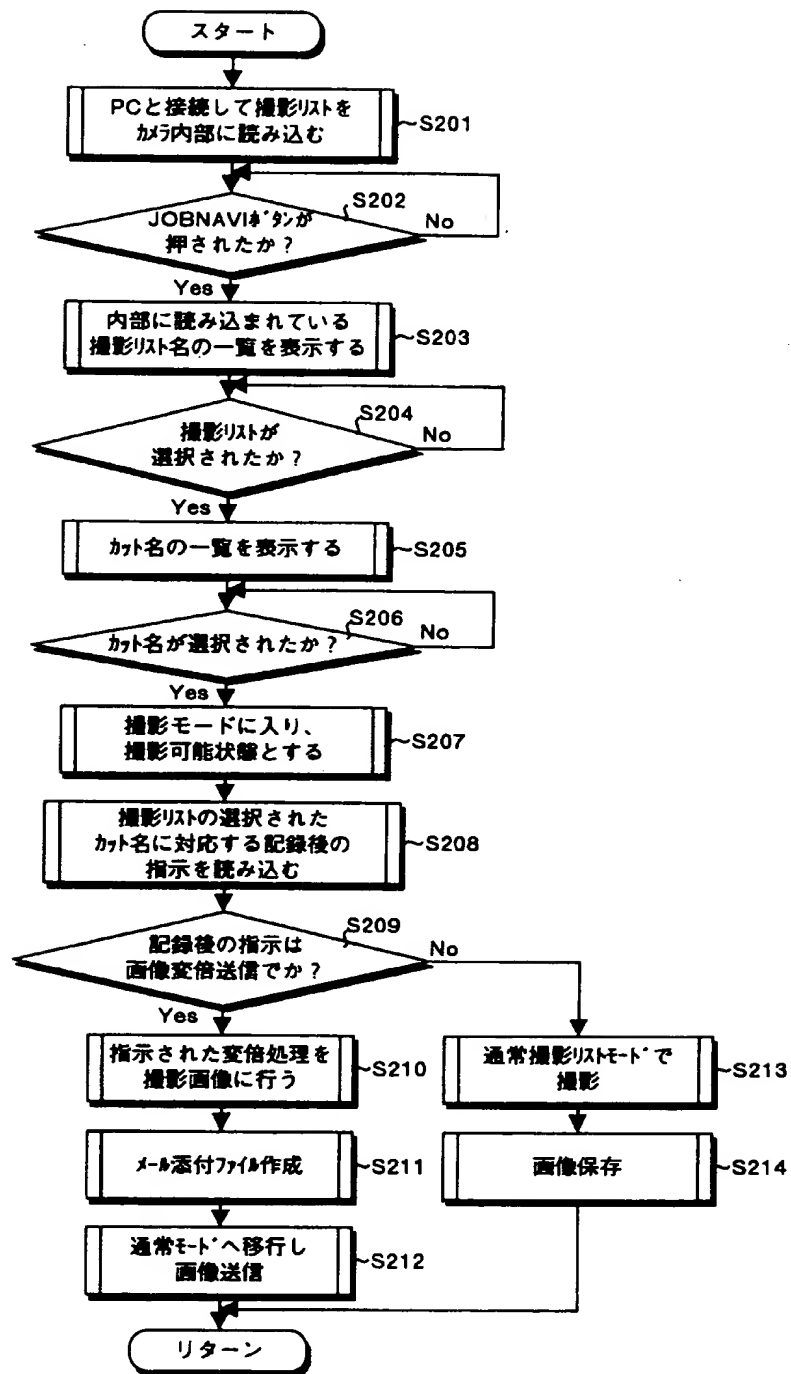
撮影の後処理として画像をメールで送るコマンドの例

```
mail <あて先>,<あて先>,...,<あて先>option
option:thumbnail サムネールを送る
      resize<サイズ> 指定したサイズに変倍して送る
      archive<ファイル名> 指定したファイル形式に変倍して送る
                           たとえば.LZH,.ZIP,.tar,.sit など
```

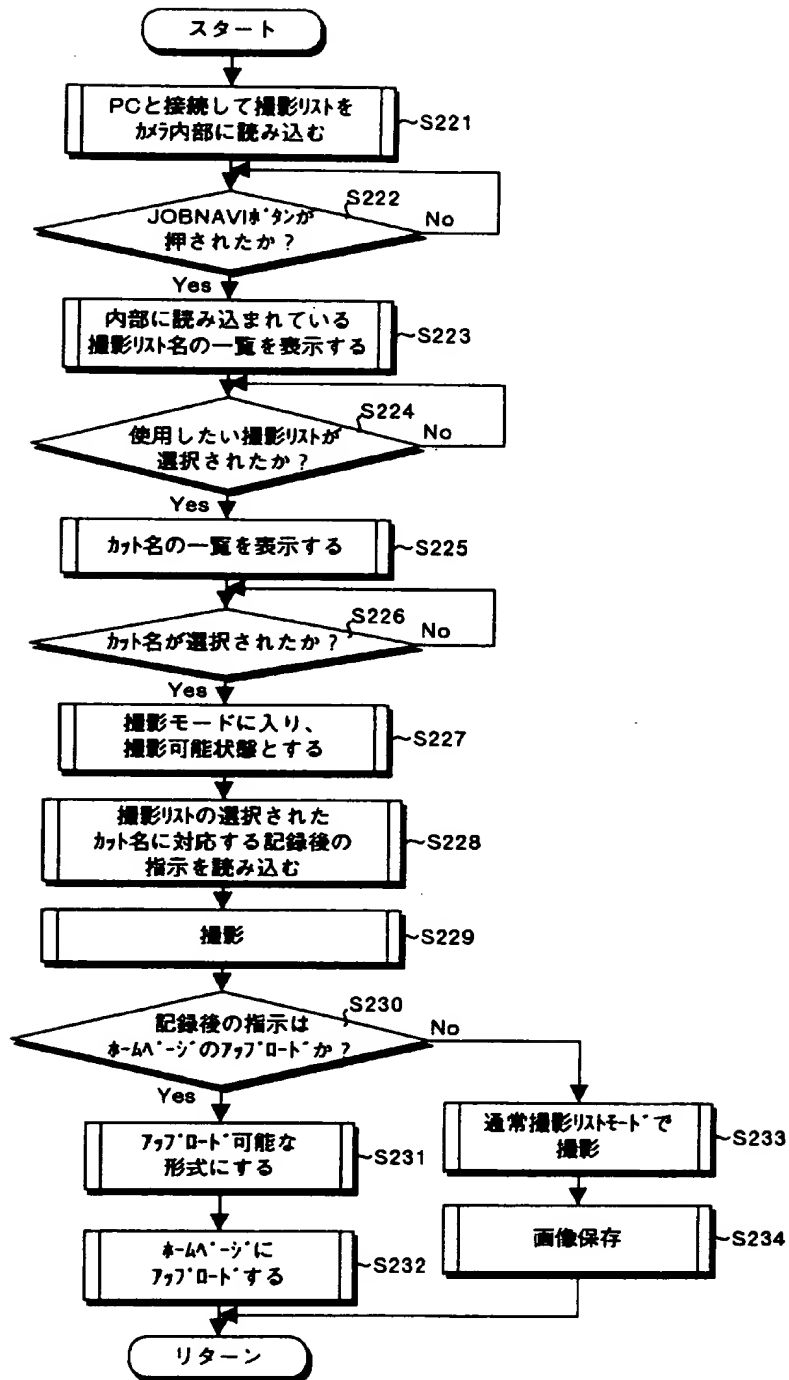
【図 21】



【図 22】



【図 23】

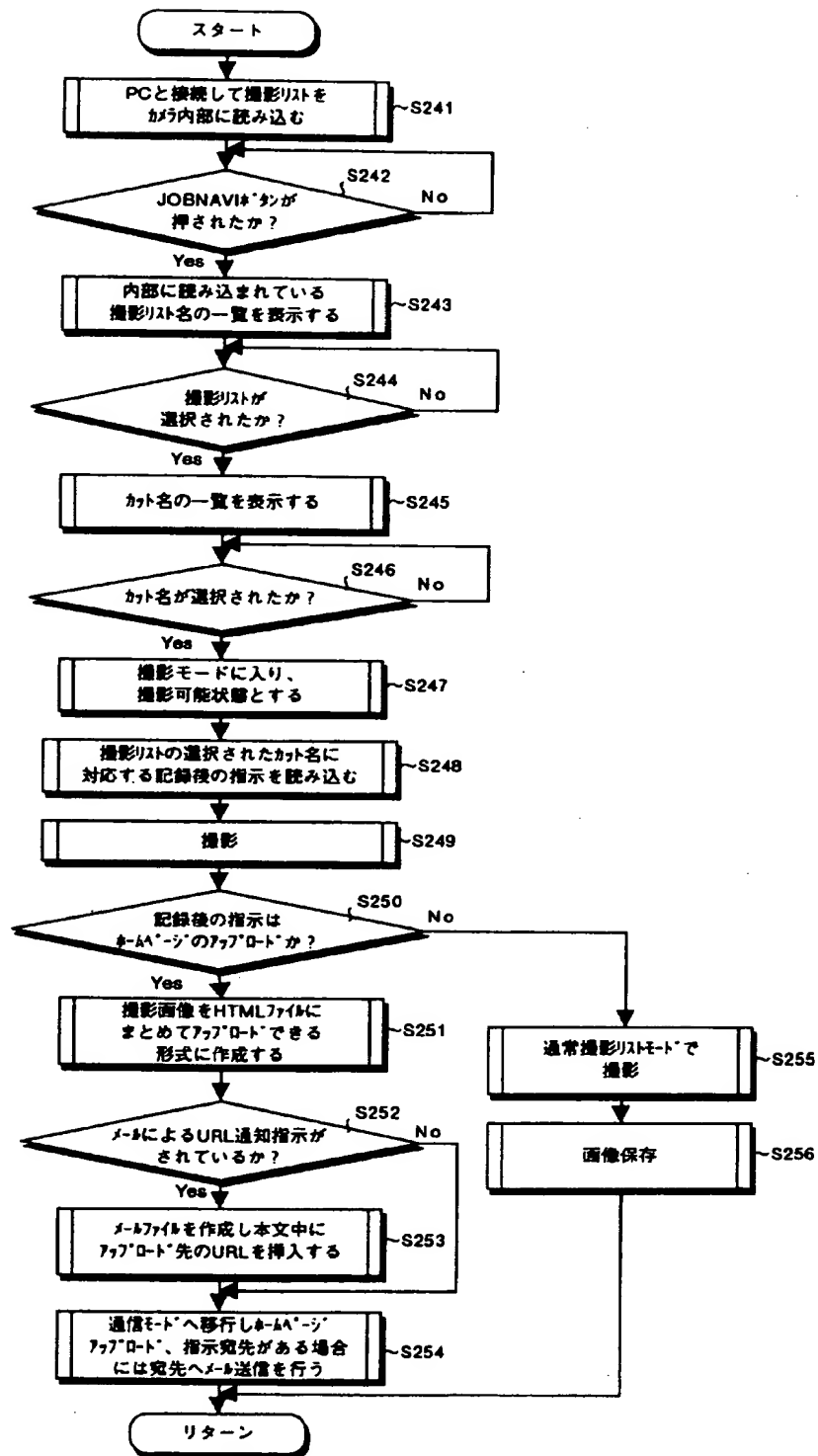


【図24】

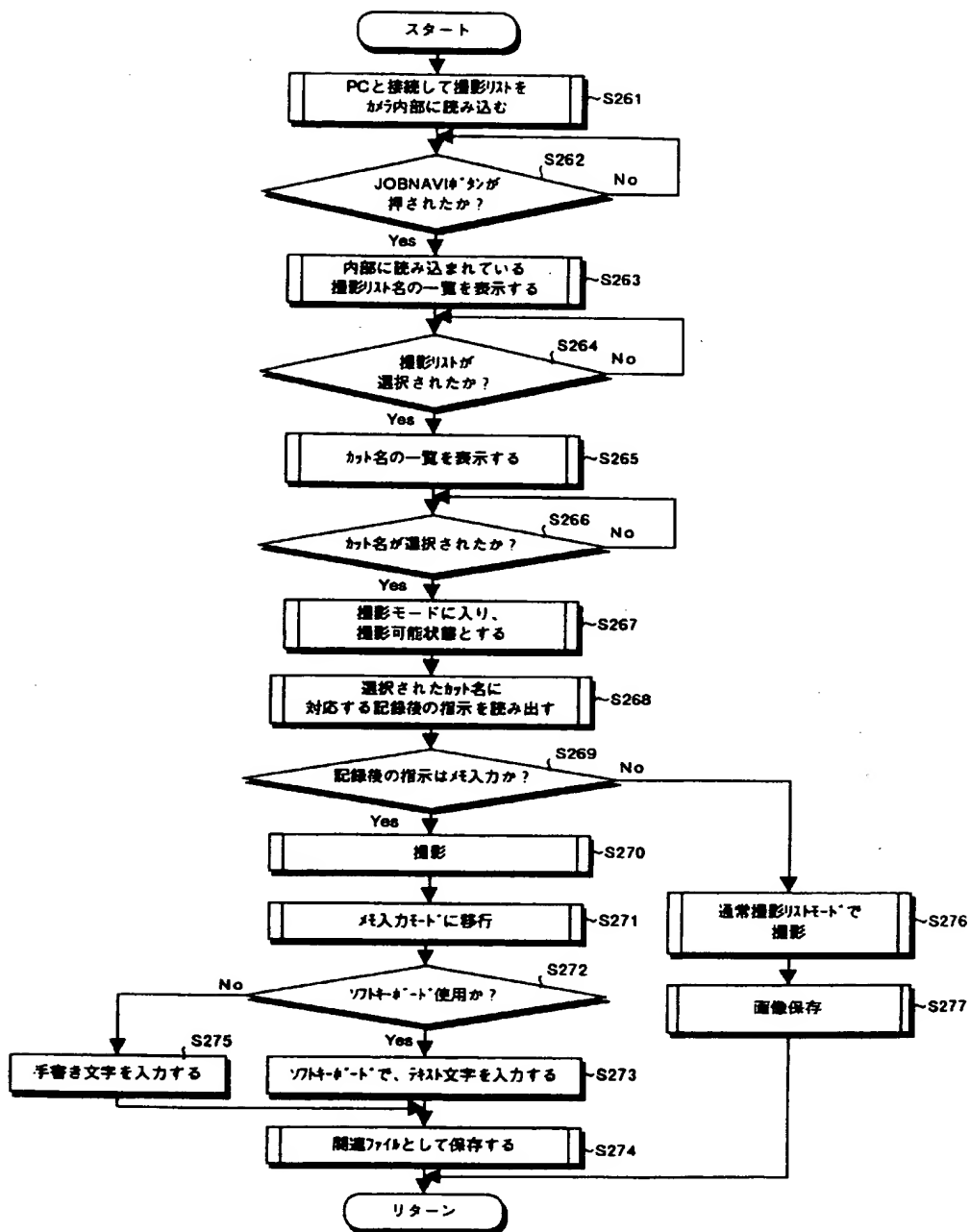
撮影の後処理として画像をWebサーバに
アップロードするコマンドの例

```
webupload <アップロード先アドレス>option
option:sendURL      アップロード先URLを通知するメールを
                     作る。(メールの草稿として保存)
resize<サイズ>      指定したサイズに変倍して送る
```

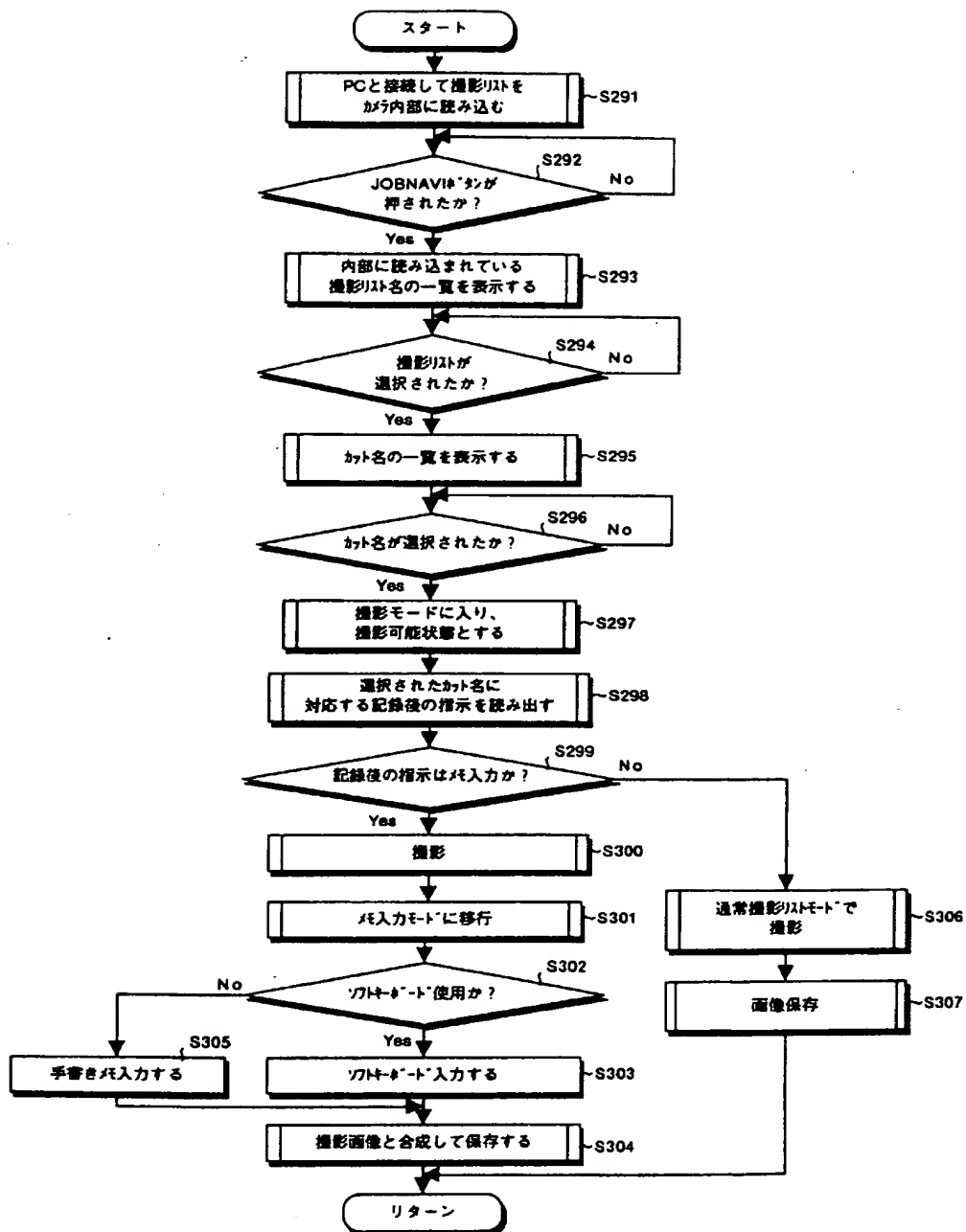
【図25】



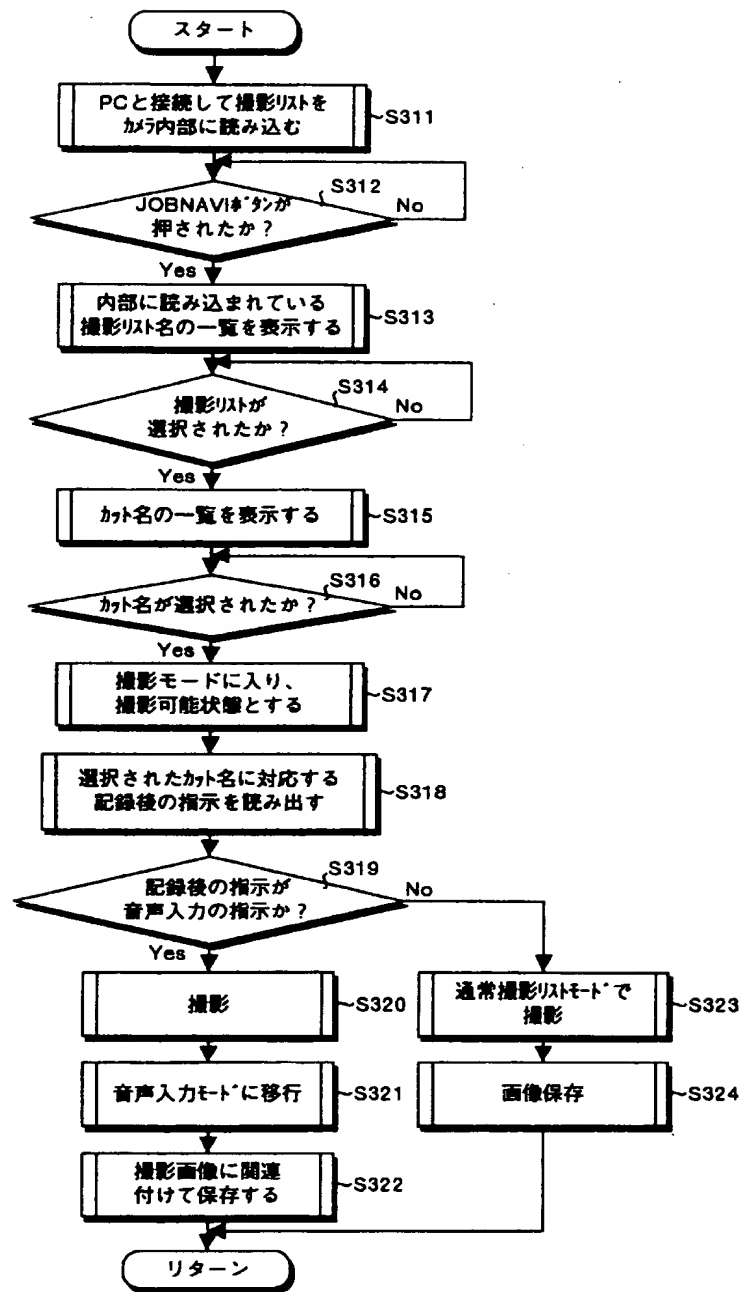
【図26】



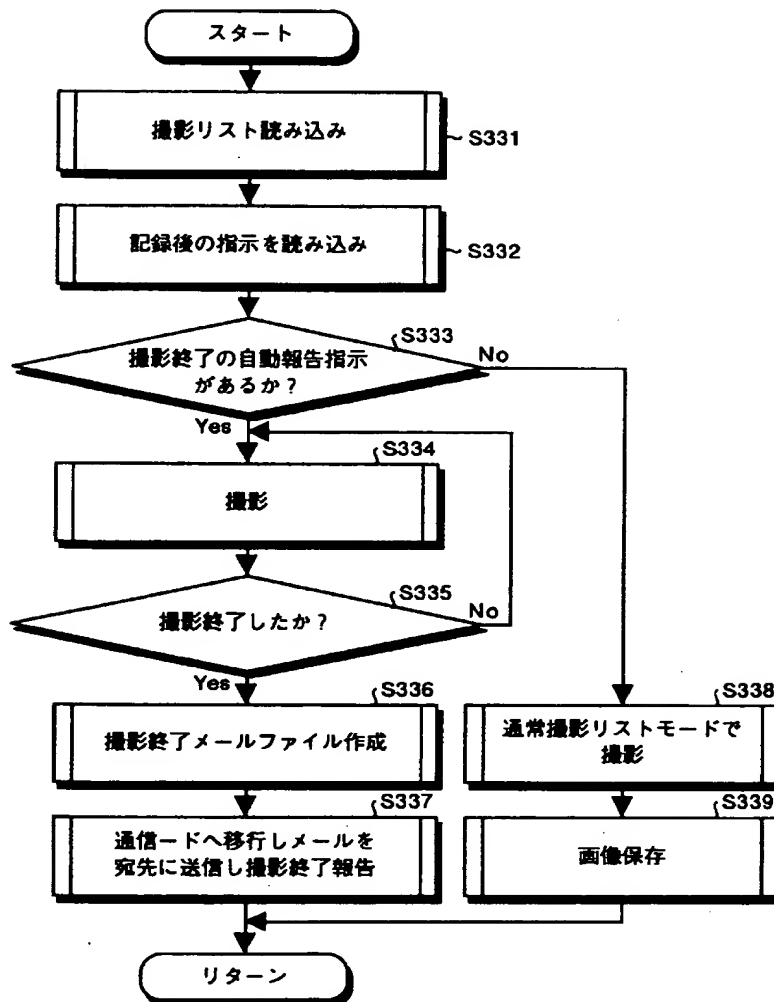
【図 27】



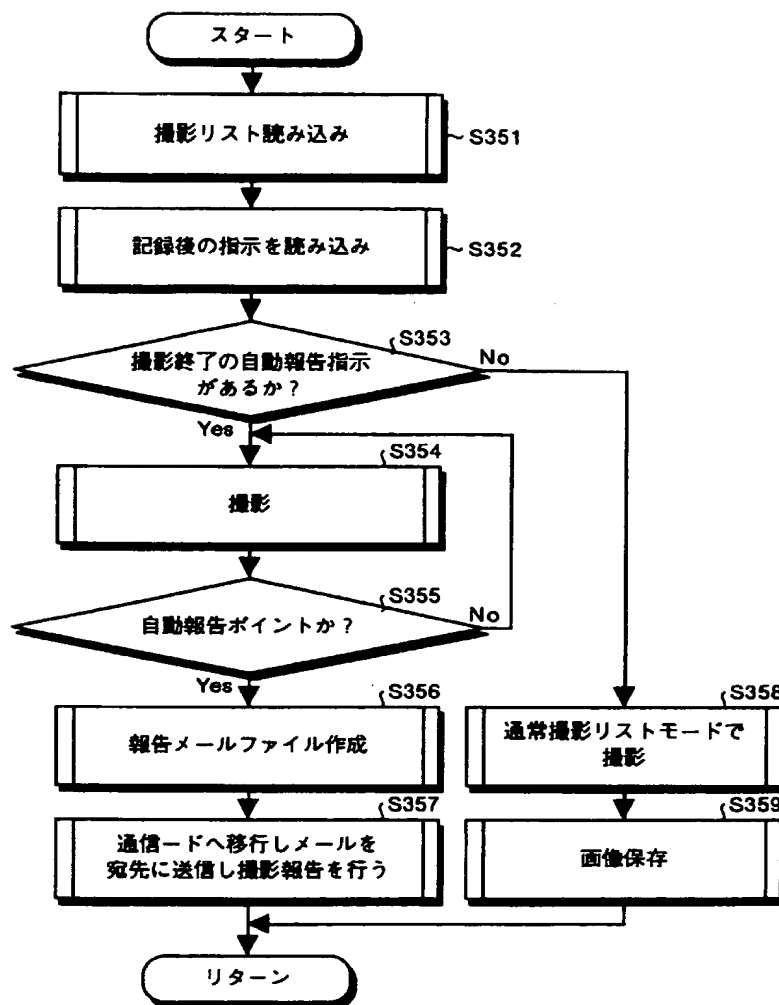
【図 28】



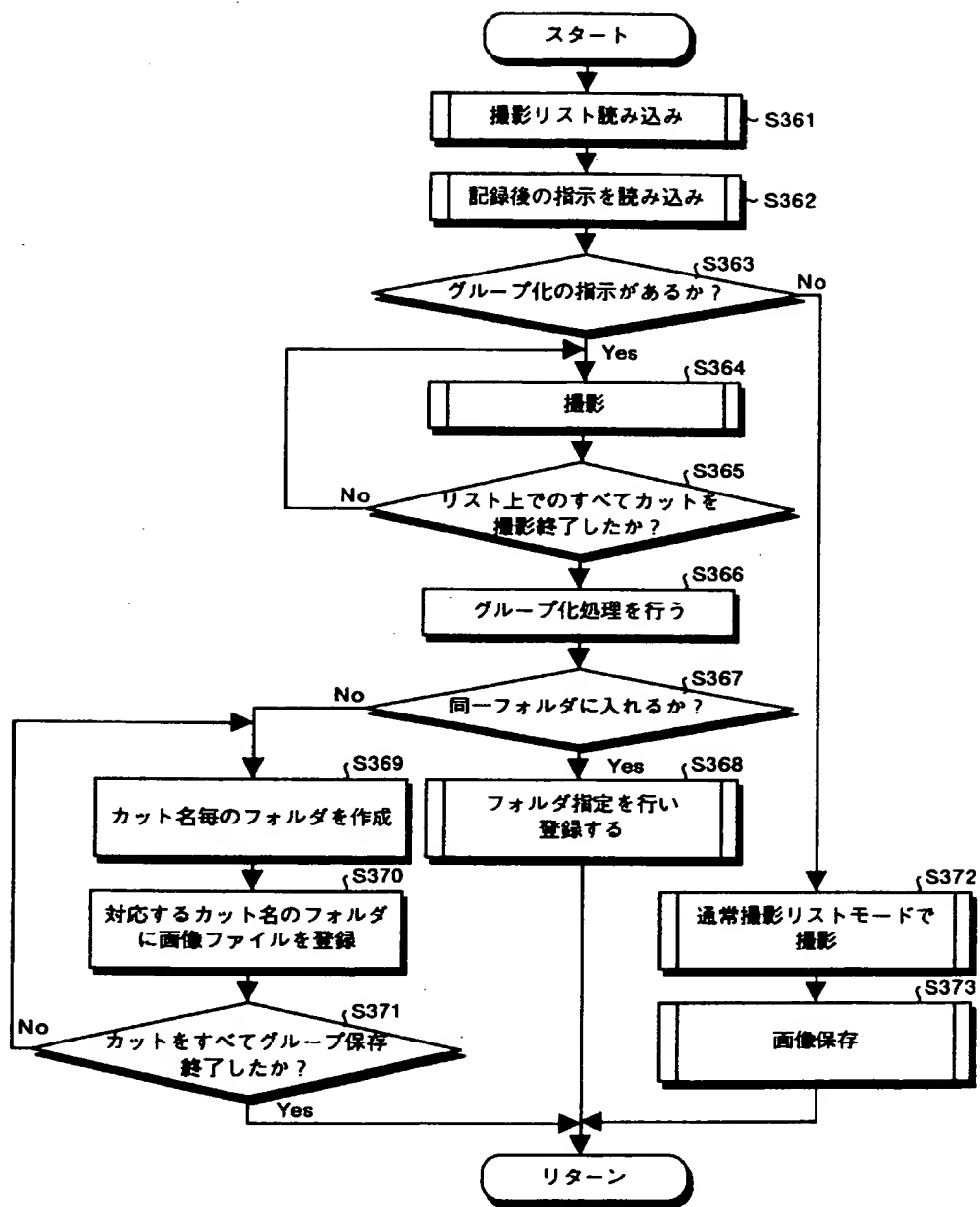
【図 29】



【図 30】



【図 31】



【図 3 2】

100RLIST (フォルダ名)

CAMERA_SHOW99.1st (撮影リスト名)

RIMG001.jpg

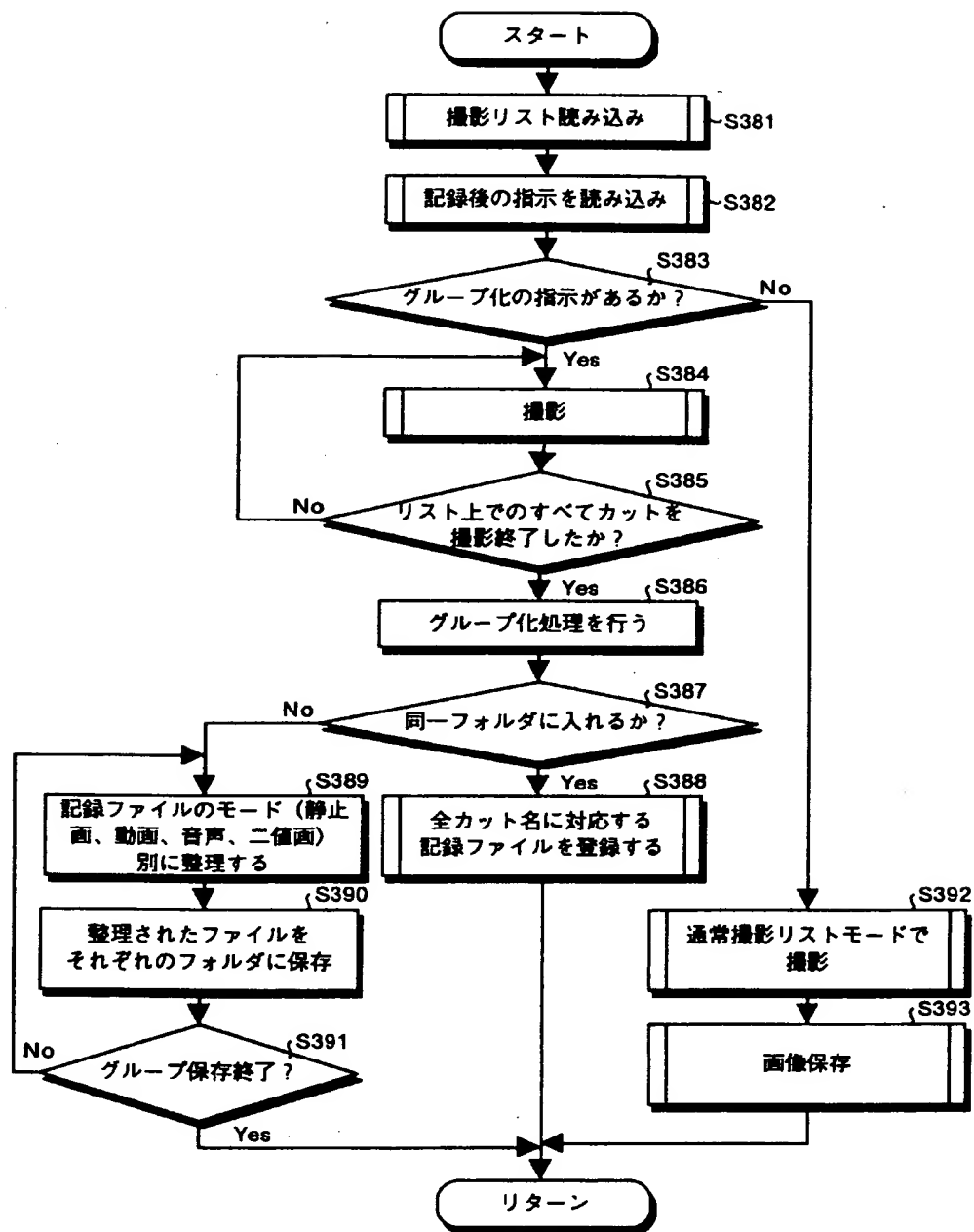
RIMG005.jpg

RIMG002.jpg

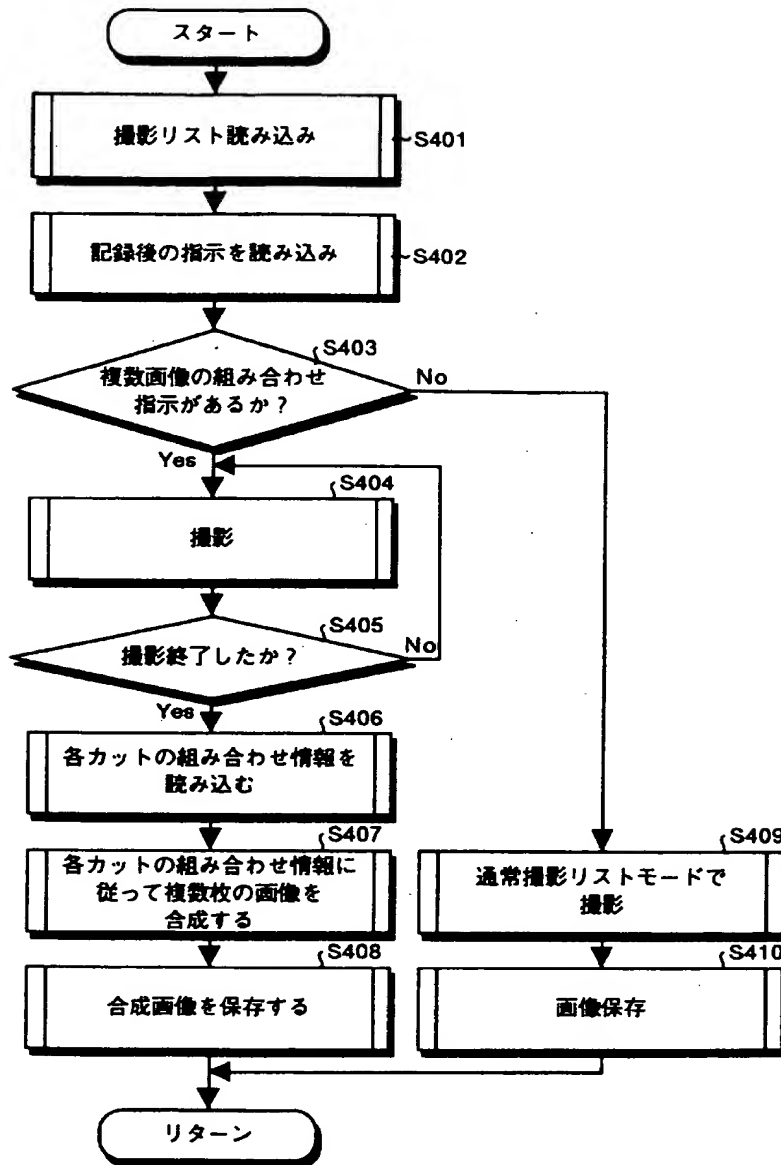
RIMG003.jpg

RIMG004.jpg

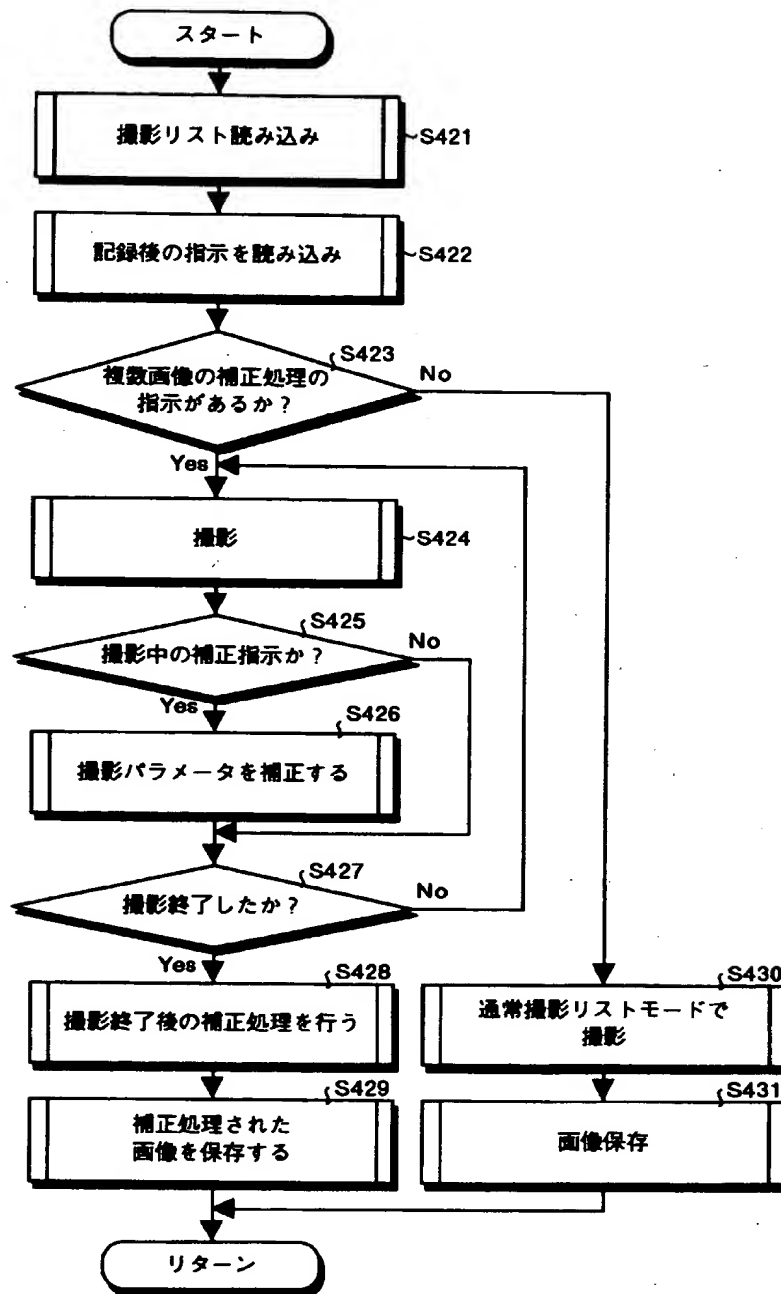
【図 33】



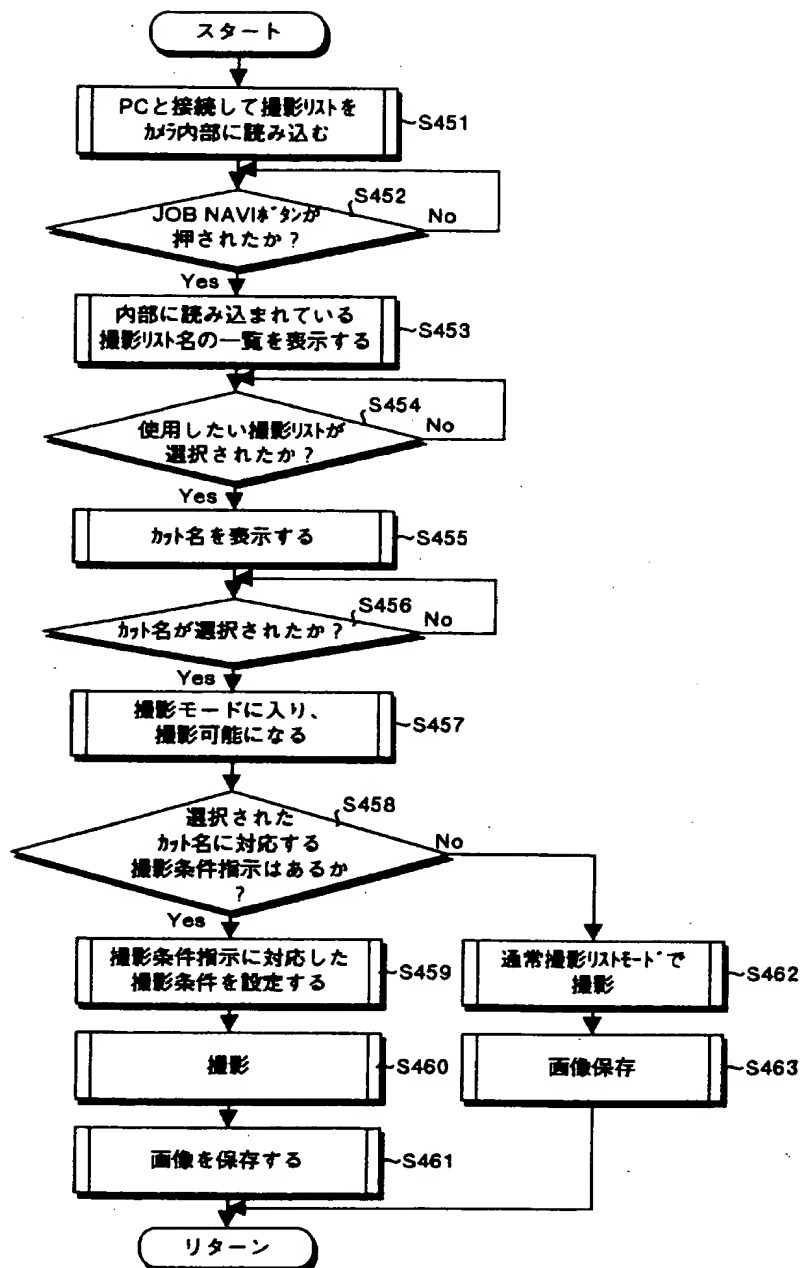
【図 34】



【図 35】



【図 36】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 必要な被写体の取り忘れや作業漏れを防止可能な画像入力装置を提供すること。

【解決手段】 デジタルカメラ 1 0 0 では、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、撮影リストに含まれるカット名を表示部 1 0 4 に表示し、撮影リストのカット名を確認しながら撮影を行う。

【選択図】 図 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
氏 名 株式会社リコー